

市民的公共性と自主的組織生成の条件

～新狭山ハイツの事例研究～

The Conditions of Creation of Civil Public Sphere and the Community Organizations

～A case study of Shin-Sayama Heights in Sayama～

齋藤 友之

- | | |
|-----------------|----------------------------|
| 1. 研究対象地域の概要 | 6. ハイツの信頼 |
| 2. 本研究の目的と分析視点 | 7. 近所づきあい、助け合い、社会参加と信頼との関係 |
| 3. 回答者の属性 | 8. ハイツの特徴を規定する居住者の姿 |
| 4. 近所づきあいの状況 | 9. 結果と政策展開の可能性 |
| 5. 組織・団体への意識と参加 | |

〔要約〕

新狭山ハイツ（分譲団地）では、管理組合と自治会、ハイツ内にあるNPOの三者が連携し、ハイツ・コミュニティの問題解決を行っている。本稿は、この先進的な取り組みが成立した背景には、ソーシャル・キャピタルがきわめて強く影響していることを、アンケート調査を基に明らかにしようと試みたものである。その結果、ソーシャル・キャピタルのうち信頼と近所づきあいの程度が全国レベルより非常に高く、助け合いが促進されていることが判明した。その点で、新狭山ハイツの取り組みは、先進的な共助モデルと位置づけられる。

In the Shin-Sayama Heights, the homeowners' association, the neighborhood association, and NPO cooperate, and it has solved the problem of the community in them. This paper tries to make it clear that social capital has had very strong influence on the background that this advanced measure was organized, based on a questionnaire. As a result, it turned out that trust and neighborly relations of the community are much higher than national level. Thus, the structure for problem solving in the community of Shin-Sayama Heights, will be positioned as a advanced model for mutual aid.

1. 研究対象地域の概要

新狭山ハイツ（以下、「ハイツ」）は、狭山市掘兼地区に立地し、1973年～74年に分譲された770世帯の分譲団地である^①。現在、703世帯に約1,520人が住んでいる。ハイツは市街化調整区域内にあり、周辺には穏やかな田園と雑木林が織りなす里並が広がっている。

分譲以来、この39年の間、自治会、管理組合、さらには各種自主的組織・団体などが、ハイツ内の問題や課題に際して連携しながら解決するなど、ハイツぐるみで活発かつ多様なコミュニティ活動が展開されてきている。その取り組みは、1976年「埼玉県及び狭山市自然環境保全功労者表彰」を皮切りに2007年狭山市環境浄化功労者表彰の受賞まで、実に17にも及ぶ表彰を受けている。

活発かつ多様な取り組みが展開されているハイツ・コミュニティの特質には、主に以下の3点が指摘できる。

(1) コミュニティ活動の多様な担い手

ハイツには21の各種自主的組織・団体がある。設立年代別にみると、1973～82年には自治会、子供育成会、寿会、緑化推進本部、あおやぎ文庫を順次設立している。83年～92年には管理組合、秩父荒川交流実行委員会、手作り工作隊（まるた小屋）、文化サロンまるたの会、花水木会、93年～2002年には自衛防災隊、楽農クラブ、生ごみリサイクルを進める会、福祉の会・風見どり、わくわく自然園を守り育てる会、03年にはNPO法人じおす、アルミ缶リサイクルの会、たすけあいの輪、青空サロン、たまごルームが設立されている。

このうち、コミュニティの牽引役として重要な役割を果たすのが、自治会と管理組合である。ハイツ・コミュニティは、自治会が「コミュニティ運営」、管理組合が「共有財産の保全」、そして自衛防災隊が「暮らしの安全」をそれぞれ担う形をとっている。コミュニティ運営を担う主な組織・団体には緑化推進本部、わくわく自然園を守り育てる会、生ごみリサイクルを進める会、楽農クラブ、アルミ缶リサイクルの会があり、主に環境保全に力点が置かれている。暮らしの安全には子供育成会、あおやぎ文庫、まるたの会、秩父荒川交流実行委員会があり、主に文化・交流を担っている。共有財産の保全には寿会、福祉の会・風見どり、花水木会、たすけあいの輪、青空サロン、たまごルームがあり、主に福祉を担当している。これらの組織・団体には、ハイツ人口約1,500人のうち400人ほどが加入し、実質的な参加は500人強でハイツ人口の3分の1となっている^②。

(2) コミュニティ・ビジネスの創造

ハイツでは、各種の自主的組織・団体同士あるいは狭山市等と連携している。自治会は、狭山市から生ごみリサイクルなどの補助金や委託を受け、管理組合からも広報や防災、植

木の剪定などのための助成金をそれぞれ受けている。自治会はさらに、ハイツ内の寿会や子育て成会などの各種自主的組織・団体に助成金を出し、NPO には広報や印刷などの業務を委託する。NPO や各種自主的組織・団体は自治会や管理組合だけではなく、狭山市や民間などからの助成金や業務委託も受けている。NPO は助成や委託を受けるだけでなく、各種自主的組織・団体に対しても助成金を出している。このように、ハイツ内の各種自主的組織・団体は、何らかの形でハイツの内外とネットワーク化されている。

このネットワークの本質は、各種自主的組織・団体に参加している人がハイツの住人であるため、組織・団体の活動資金が住人に還元される仕組みであり、生きがいつくりや雇用の場の創出につながっていることである。つまり、地域のお金が賢く地域内で循環されると同時に雇用の場の創出につながっている。この点では、まさにコミュニティ・ビジネスの一つのモデルとなっている訳である。

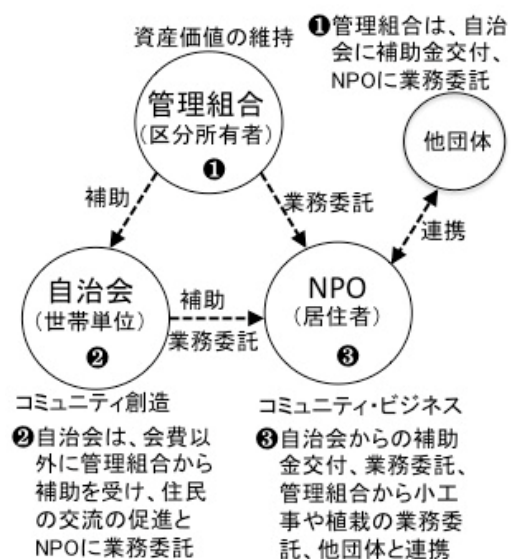
(3) 問題解決の3層構造

ハイツ内のさまざまな問題に対する解決過程においては、主に四つの特徴がある。第1が、ハイツで現に起こっている問題に対応するという受動的な姿勢よりも、将来を見据えた課題解決という能動的あるいは先取りの姿勢をとっている点である。第2が、ハイツでは、問題や課題に対する発案や合意形成に自治会が絡んでも、実施段階では新たな担い手を立ち上げ、積極的にそこに託して行く方法がとられていることである。その結果、上述のように多様な自主的組織・団体が生まれた訳である。第3が、課題に対応していくために、狭山市及びその周辺地域における、行政、関係団体やグループなどと緩やかな連携を図ると共に、協働していることである。第4が、課題解決活動の継続性という観点から、自治会、管理組合、ハイツ内の各種組織・団体の役員あるいはその経験者、自薦他薦による一般居住者によって NPO 法人（「特定非営利活動法人グリーンオフィスさやま」愛称：NPO じおす）を立ち上げ、その NPO がコミュニティ活動の中核を担っている点である。

なお、この NPO の下で、自治会の活動を支えていた緑化推進本部やわくわく自然園を守り育てる会、生ごみリサイクルを進める会、楽農クラブ、アルミ缶リサイクルの会が活動することになった。

ハイツのコミュニティ活動では、従来は管理組合と自治会(自治会と連携し「環境保全」を担う各種自主的組織・団体もある。)の二つが中核をなしていたが、

図1 ハイツの問題解決の3層構造



現在では、管理組合、自治会、NPO の3層構造へと変遷している。これによって、継続的活動を担保し、しかも、上述の能動的な取り組み姿勢、ハイツ内外の各自主的組織・団体との連携、NPO における地域人材の登用といったハイツの経験を生かした自治的な問題解決構造として生まれ変わっている。この自治的な点がハイツの最大の特質と言えるだろう。

2. 本研究の目的と分析視点

(1) ソーシャル・キャピタルと本研究対象の位置

2010年4月3日に放映されたNHK番組『無縁社会—私たちはどう向き合うか—』は、年間3万人をこえる自殺、深刻化する児童虐待、そして老人だけでなく若い世代に広がる孤独死の背景には、家族、ふるさと、そして「会社とのつながり」が急速に切れていることを明らかにし、こうした社会を「無縁社会」と呼んだ。また、11年3月11日の東日本大震災では、津波からの避難に際して地域のつながりがあるか否かが生死を分けたことや、避難先でのコミュニティの内実が、被災者の健康に影響を与えることが新聞等の報道だけでなく、各種の調査でも明確にされている。

このような人と人を結びつけるものは、社会関係資本 (social capital) ないしソーシャル・キャピタル (以下、「SC」) と呼ばれる。具体的には、人びとの間の協調的な行動を促す信頼や、互酬性の規範、ネットワークといったものである。学術的には、パットナムの1993年『哲学する民主主義』や2000年の『孤独なボウリング』の中でSCが紹介され、世界的に広まったものである。SCは前著の中では、協調的行動を容易にすることにより社会の効率を改善しうる信頼・規範・ネットワークなどの社会的仕組みの特徴と定義されたものの、実態にそぐわないとの批判から、後著の中で修正が加えられ、個人間のつながり、すなわち社会的ネットワーク、及びそこから生じる互酬性と信頼性の規範である、と再定義された。

我が国においてSCの研究が始められたのは2000年頃からである^③。しかし、SCあるいはソーシャル・キャピタルという言葉が広く知れ渡るようになったのは03年以降であり、その契機となったのが内閣府国民生活局 (2003) 『ソーシャル・キャピタル—豊かな人間関係の構築と市民活動の好循環を求めて—』 (以下、「内閣府03」) である。その後、内閣府経済社会総合研究所 (2005) 『コミュニティ機能再生とソーシャル・キャピタルに関する研究調査報告書』 (以下、「内閣府05」) 、山内直人・伊吹英子編 (2005) 『日本のソーシャル・キャピタル』といった研究がある。比較的最近では、日本総合研究所 (2008) 『日本のソーシャル・キャピタルと政策—日本総研2007年全国アンケート調査結果報告書—』がある。

これらの研究は、大きく二つの点で共通している。一つが、ボランティア・NPO・市民活動・地縁的活動とSCとの関係に焦点を当てていることである。つまり、人びとが他人に

対して抱く「信頼」や、情けは人の為ならず、お互い様、相身互い、持ちつ持たれつといった言葉に代表される「互酬性の規範」、人や組織の連携である「ネットワーク」（稲葉、2011、p.1）が、集団としての協調性や地域力（問題解決力）といった価値を生み出しているか否かを調べている訳である。もう一つが、これらの研究は個人を対象とし、調査範囲も広く、県ないし全国的な規模に及んでいることである。

上述の通り、本研究の対象地域である新狭山ハイツのコミュニティでは、SCが豊かでもそれがコミュニティの問題解決あるいは暮らしやすい地域づくりへと結びついている。SCのこうした前向きな作用をもたらしたことがハイツの特質と言えるだろう。この過程は、居住者による市民的公共性を創り上げ、それを実現する手段として居住者自らがコミュニティ組織を作りあげてきた結果でもある。これらの点からすると、ハイツの事例は今後のコミュニティにおける市民的公共性の創造とそのための自主的なコミュニティ組織の形成、すなわちコミュニティの共助モデルとして位置づけることができるだろう。

（2）本研究の目的

そこで、本研究では、よりマイクロなコミュニティに限定し、SCのうち信頼を基軸⁴として近所づきあい、助け合い、社会参加との関係性における特質を把握し、ハイツの問題解決の3層構造が生成した前提条件を明らかにすることを目的としている。すなわち、市民的公共性と自主的組織・団体の生成の前提として、SCが関連しているかどうかを明らかにしようと試みるものである。

その意図は、第1に、SCが豊かな社会は、支え合いや助け合いのある共助社会でもある。本稿においては、この共助が成り立つための諸条件について考察することで、具体的な政策形成への知見が得られることを期待している。

第2に、共助社会においては、まちづくりや地域づくりを成功へと導く上で、地域に対する個人の利他的ないし協調的な行動や活動が重要であると共に、その行動や活動の継続性を保障する受け皿として組織が必要である。このように考えれば、本研究において個人の社会参加と組織化の要因を探る手がかりを得ることが期待できる。

第3に、先行研究である内閣府等の調査と本研究との比較によって、モデルケースの位置や上記諸点についての全国的なレベルにおける位置づけを把握することができる点にある。その際、さいたま市（2006）『ソーシャル・キャピタル向上に向けた基礎調査報告書』（以下、「さいたま市調査」）のデータも適宜利用する。

本研究の目的を果たすことで、第1に、共助社会における政策の形成及び執行の主体あるいは共助の具体的な形を多元化させることが可能となること、第2に、利他的行動を自発的に出現させる方策が導出できること、そして第3に、ボランティアやNPOだけではなく、社会的企業（social business）の創出といった地域活性化のビジネスモデルを導くことができる。

(3) 分析視点

ハイツにおいて3層構造が生まれた背景として、次の三つの仮説を想定した。第1の仮説は、住宅の購入は主に財政的事情で決定されるが、住めば都と言われるように、年齢や居住年数の経過と共に隣人との交流が増え、それが共同性の発現⁵⁾と信頼の向上⁶⁾を促したのではないかと。第2の仮説は、年齢や居住年数が増えると同時に、ハイツ内の自治会等自主的組織・団体への社会参加の経験を通じて近所づきあいや友人・知人との交流が増え、それが信頼を高め、支え合いや助け合いという互酬性を高めるのではないかと。第3に、近所づきあいや助け合い、社会参加の程度は、はじめから確信的に一生住もうと考えていた人よりも、むしろ途中から一生住もうと意識が変更した人の方が高いのではないかと。

本稿では、上記のうち第2と3の仮説を中心に、アンケートを基に分析する。もともと共同性の発現と信頼の向上は共に問題・課題の存在を前提としている。それゆえ、第1の仮説を検証するためには、各種自主組織・団体が設立された経緯を詳しく分析する必要がある。その点で、現在の居住者全員を対象とする今回の調査では、設立にかかわっていない人までもがアンケート調査の対象となり、調査上、非効率である。したがって、本稿の分析対象は、主に第2と3の仮説の検証に重きを置いている。

アンケートにおいて基軸とすべき点は、年齢（問1）、居住年数（問3）、居住に対する認識（問10）の三つであり、これらを中心に他項目とのクロス分析によって考察する。なお、これらの点を分析するためのアンケート項目及び集計結果については、文末に資料として掲載しているので、詳しくはそれを参照されたい。

3. 回答者の属性

まず、回答者（全345人）の状況を属性から整理する。

(1) 年齢層

年齢層は、60歳以上が69.8%と全体の7割を占め、70歳以上でみると38.8%と4割近くになる。独立行政法人都市再生機構（2009）『団地および近隣地域と交流に関するアンケート調査』（以下、「UR調査」）⁽⁷⁾と比べると、ほぼ同じ傾向を示している。

(2) 居住年数

居住年数では、全体でみると「30年以上」が46.4%と最も割合が高く、次いで「20年以上～30年未満」が18.8%となっており、この二つを合わせて20年以上の居住年数の者が全体の65.2%を占め、居住年数が長い人が多い。年齢別では、「60歳以上～70歳未満」と「70歳以上～80歳未満」とを合わせると、「30年以上」の占める割合は77.5%と8割近くに達する。「20年以上～30年未満」では、「60歳以上～70歳未満」が、「10年以上

表1

		問3 あなたは、ハイツに住んでどれくらいになりますか。						
問1 あなたの年齢層は、どれですか。		1 1年以上～5年未満	2 5年以上～10年未満	3 10年以上～20年未満	4 20年以上～30年未満	5 30年以上～	無回答	総計
1 20歳以上～30歳未満	実数 %	4 1.2%	0 0.0%	0 0.0%	2 0.6%	0 0.0%	0 0.0%	6 1.7%
2 30歳以上～40歳未満	実数 %	6 1.7%	5 1.4%	1 0.3%	1 0.3%	0 0.0%	1 0.3%	14 4.1%
3 40歳以上～50歳未満	実数 %	1 0.3%	4 1.2%	10 2.9%	2 0.6%	3 0.9%	1 0.3%	21 6.1%
4 50歳以上～60歳未満	実数 %	7 2.0%	9 2.6%	9 2.6%	16 4.6%	13 3.8%	0 0.0%	54 15.7%
5 60歳以上～70歳未満	実数 %	4 1.2%	7 2.0%	21 6.1%	33 9.6%	41 11.9%	1 0.3%	107 31.0%
6 70歳以上～80歳未満	実数 %	5 1.4%	3 0.9%	8 2.3%	5 1.4%	83 24.1%	0 0.0%	104 30.1%
7 80歳以上	実数 %	1 0.3%	0 0.0%	3 0.9%	6 1.7%	20 5.8%	0 0.0%	30 8.7%
無回答	実数 %	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	9 2.6%	9 2.6%
全体の 実数		28	28	52	65	160	12	345
全体の %		8.1%	8.1%	15.1%	18.8%	46.4%	3.5%	100.0%

～20年未満」では「60歳以上～70歳未満」が、「5年以上～10年未満」では「50歳以上～60歳未満」が、それぞれ最も高く、居住年数が長くなるほど年齢が高い傾向にある（表1）。

これらの点からすると、居住年数が長くなるほど年齢が高く、特に30年以上の居住者のうち高齢者の占める割合が高い^⑧。分譲開始当時30歳代～40歳代の人たちと、その後の入居者である40歳代～50歳代に該当する人たちが高齢期を迎えている状況が窺える。

（3）家族構成

家族構成では、「単身世帯」いわゆる一人暮らしが22%、「夫婦のみ世帯」が36.8%、「親と子の同居世帯」が32.8%となっており、「夫婦のみ世帯」と「親と子の同居世帯」とで全体の約7割を占める（表2）。年齢別にみると、「単身世帯」では「70歳以上～80歳未満」が6.1%、「夫婦のみ世帯」では「70歳以上～80歳未満」が15.4%、「親と子の同居世帯」では「60歳以上～70歳未満」が10.1%と、それぞれ最も高い。

これらの点からすると、「親と子の同居世帯」→「夫婦のみ世帯」→「単身世帯」へと移行するにつれ、60歳以上の人占める割合がやや高くなる傾向にある。単身の高齢者の割合が増える傾向が窺える。

表2

問1 あなたの年齢層は、どれですか。		問4 あなたの家族構成は、どうなっていますか。					総計
		1 単身世帯	2 夫婦のみ世帯	3 親と子の同居世帯	4 その他	無回答	
1 20歳以上～30歳未満	実数 %	1 0.3%	0 0.0%	2 0.6%	2 0.6%	1 0.3%	6 1.7%
2 30歳以上～40歳未満	実数 %	3 0.9%	1 0.3%	9 2.6%	1 0.3%	0 0.0%	14 4.1%
3 40歳以上～50歳未満	実数 %	6 1.7%	1 0.3%	12 3.5%	2 0.6%	0 0.0%	21 6.1%
4 50歳以上～60歳未満	実数 %	14 4.1%	8 2.3%	27 7.8%	5 1.4%	0 0.0%	54 15.7%
5 60歳以上～70歳未満	実数 %	19 5.5%	50 14.5%	35 10.1%	3 0.9%	0 0.0%	107 31.0%
6 70歳以上～80歳未満	実数 %	21 6.1%	53 15.4%	24 7.0%	6 1.7%	0 0.0%	104 30.1%
7 80歳以上	実数 %	12 3.5%	14 4.1%	4 1.2%	0 0.0%	0 0.0%	30 8.7%
無回答	実数 %	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	9 2.6%	9 2.6%
全体の 実数		76	127	113	19	10	345
全体の %		22.0%	36.8%	32.8%	5.5%	2.9%	100.0%

(4) 所得

所得では、「200万円以上～400万円未満」が40.9%と最も多く、次いで「200万円未満」が32.5%で、合わせて全体の73.4%を占める（表3）。年齢別にみると、「200万円未満」では「60歳以上～70歳未満」が11%、「70歳以上～80歳未満」が9%、「200万円以上～400万円未満」では「60歳以上～70歳未満」が13.3%、「70歳以上～80歳未満」が16.2%と⁹⁾、この四つを合わせて全体の49.5%を占める。また、年齢にかかわらず、600万円以上の所得者は非常に少ない。

これらの点からすると、で400万円以下の所得で60歳以上～80歳未満が全体の約4割を占め、その中でも「200万円以上～400万円未満」の占める割合は7割と高い⁹⁾。

(5) 職業

現在、仕事を持っている有業者の割合は、全回答者（345人）のうち133人（37.6%）と少ない。有業者のほとんどは、「民間企業・団体の勤め人」（17.1%）と「臨時・パートの勤め人」（14.8%）と、合わせて全体の約3割（31.9%）を占める。年齢別にみると、前者は60歳未満の層に多く、後者は逆に60歳以上に多い（表4）。

これらの点からすると、有業者のうち60歳未満の会社勤めか、60歳以上のパート勤め（年金暮らしを含む。）かに二分されることがわかる。

表3

		問7 あなたの年収は(年金を含む)は、どれくらいですか。									
問1 あなたの年齢層は、どれですか。		1 200万円未満	2 200万円以上～400万円未満	3 400万円以上～600万円未満	4 600万円以上～800万円未満	5 800万円以上～1,000万円未満	6 1,000万円以上～1,200万円未満	7 1,200万円以上～	8 わからない	無回答	総計
1 20歳以上～30歳未満	実数 %	1 0.3%	1 0.3%	0 0.0%	1 0.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 0.9%	0 0.0%	6 1.7%
2 30歳以上～40歳未満	実数 %	5 1.4%	3 0.9%	5 1.4%	1 0.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	14 4.1%
3 40歳上～50歳未満	実数 %	8 2.3%	7 2.0%	3 0.9%	1 0.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.3%	1 0.3%	21 6.1%
4 50歳以上～60歳未満	実数 %	19 5.5%	12 3.5%	6 1.7%	7 2.0%	5 1.4%	0 0.0%	1 0.3%	2 0.6%	2 0.6%	54 15.7%
5 60歳以上～70歳未満	実数 %	38 11.0%	46 13.3%	13 3.8%	3 0.9%	0 0.0%	1 0.3%	0 0.0%	2 0.6%	4 1.2%	107 31.0%
6 70歳以上～80歳未満	実数 %	31 9.0%	56 16.2%	7 2.0%	4 1.2%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 0.6%	4 1.2%	104 30.1%
7 80歳以上	実数 %	7 2.0%	14 4.1%	7 2.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 0.6%	30 8.7%
無回答	実数 %	3 0.9%	2 0.6%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 1.2%	9 2.6%
全体の 実数		112	141	41	17	5	1	1	10	17	345
全体の %		32.5%	40.9%	11.9%	4.9%	1.4%	0.3%	0.3%	2.9%	4.9%	100%

表4

		問5-2 (現在、職業をお持ちの方へ) あなたは現在、どの職業についていますか。									
問1 あなたの年齢層は、どれですか。		1. 自営業またはその手伝い	2. 民間企業・団体の経営者、役員	3. 民間企業・団体の勤め人	4. 公務員・教員	5. 臨時・パートの勤め人	6. 学生	9. その他	無回答	総計	
1 20歳以上～30歳未満	実数 %	0 0.0%	0 0.0%	2 0.6%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.3%	0 0.0%	3 0.9%	6 1.7%	
2 30歳以上～40歳未満	実数 %	0 0.0%	2 0.6%	6 1.7%	1 0.3%	3 0.9%	0 0.0%	0 0.0%	2 0.6%	14 4.1%	
3 40歳上～50歳未満	実数 %	2 0.6%	0 0.0%	8 2.3%	0 0.0%	8 2.3%	0 0.0%	0 0.0%	3 0.9%	21 6.1%	
4 50歳以上～60歳未満	実数 %	3 0.9%	1 0.3%	25 7.2%	3 0.9%	11 3.2%	0 0.0%	0 0.0%	11 3.2%	54 15.7%	
5 60歳以上～70歳未満	実数 %	3 0.9%	2 0.6%	15 4.3%	1 0.3%	23 6.7%	0 0.0%	0 0.0%	63 18.3%	107 31.0%	
6 70歳以上～80歳未満	実数 %	2 0.6%	0 0.0%	2 0.6%	0 0.0%	5 1.4%	0 0.0%	2 0.6%	93 27.0%	104 30.1%	
7 80歳以上	実数 %	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.3%	0 0.0%	0 0.0%	29 8.4%	30 8.7%	
無回答	実数 %	0 0.0%	0 0.0%	1 0.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	8 2.3%	9 2.6%	
全体の 実数		10	5	59	5	51	1	2	212	345	
全体の %		2.9%	1.4%	17.1%	1.4%	14.8%	0.3%	0.6%	61.4%	100.0%	

注) 問15-2の選択肢のうち、7「休職中」、8「専業主婦・主夫」はそれぞれ回答が「0」のため省略している。

4. 近所づきあいの状況

(1) 近所づきあいの程度

単純集計の結果からハイツ内での近所づきあいを、「あいさつ程度の最小限の付き合いしかしていない。」(以下、「あいさつ程度」)、「日常的に立ち話しする程度の付き合いはしている。」(以下、「立ち話し程度」)、「相談したり、日用品を貸し借りするなど、生活面で協力し合っている人がいる。」(以下、「生活面での協力」)の三つの項目からみると、最低でも「あいさつ程度」以上の付き合いの割合は全体で94%を占める。

「立ち話し程度」は45.8%と半数の人が日常的に行っている。その一方、相談や頼まれごとといった親密なつきあいをする「生活面での協力」の割合は21.4%と低い。

しかし、同種の質問項目を採用している内閣府とさいたま市の調査結果と比較すると、内閣府の調査では「生活面での協力」と「立ち話し程度」の合計が03年調査では70.1%、05年調査では37%、さいたま市の06年調査の合計が53.9%であるのに対して、ハイツ比率は67.2%と高い。

これらの点からすると、ハイツでの近所づきあいの程度は、全国的にみても高いことが推測される。

(2) 付き合いしている人数

付き合いしている人数(表5)をみると、「ある程度の人と面識・交流がある(概ね5人～19人)」(以下、「中位の面識」)が46.1%、「近所のごく少数の人とだけ面識・交流がある(概ね4人以下)」(以下、「少ない面識」)が33%、「かなり多くの人と面識・交流がある(概ね20人以上)」(以下、「多い面識」)が15.7%の順になっている。

これを近所づきあいの程度でみると、「中位の面識」では「立ち話し程度」が27.8%、「少

表5

		問14 あなたの付き合いしているハイツ内の人数の程度は、どれくらいですか。					
問13 あなたのハイツ内での近所づきあいは、どの程度ですか。		1 かなり多くの人と面識・交流がある。(概ね20人以上)	2 ある程度の人と面識・交流がある。(概ね5人～19人)	3 近所のごく少数の人とだけ面識・交流がある。(概ね4人以下)	4 隣の人が誰かわからない	無回答	総計
1 相談したり、日用品を貸し借りするなど、生活面で協力し合っている人がいる。	実数	25	36	11	0	2	74
	%	7.2%	10.4%	3.2%	0.0%	0.6%	21.4%
2 日常的に立ち話しをする程度の付き合いはしている。	実数	29	96	33	0	0	158
	%	8.4%	27.8%	9.6%	0.0%	0.0%	45.8%
3 あいさつ程度の最小限の付き合いしかしていない。	実数	0	27	67	7	1	102
	%	0.0%	7.8%	19.4%	2.0%	0.3%	29.6%
4 付き合いはまったくしていない。	実数	0	0	3	5	0	8
	%	0.0%	0.0%	0.9%	1.4%	0.0%	2.3%
無回答	実数	0	0	0	0	3	3
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.9%	0.9%
全体の 実数		54	159	114	12	6	345
全体の %		15.7%	46.1%	33.0%	3.5%	1.7%	100.0%

ない面識」では「あいさつ程度」が19.4%と最も高く、「多い面識」では「立ち話し程度」8.4%と、「生活面での協力」7.2%とが拮抗している。

「多い面識」がある人は、20人以上の人との面識があり、しかも立ち話しだけではなく生活面での密接な付き合いをしている。「中位の面識」では、「立ち話し程度」の付き合いが60%（96人/159人）と多く、残りを「生活面での協力」と「立ち話し程度」とでほぼ二分している。「少ない面識」では、「あいさつ程度」が58.8%（67人/114人）と多く、密接な「生活面での協力」から「あいさつ程度」に向かって、つまり近所づきあいが疎遠になるほど割合が高くなっている。

同種の質問項目を採用している内閣府とさいたま市の調査結果と比較すると、内閣府の調査では「多い面識」と「中位の面識」の合計が03年調査では67.7%、05年調査では48%、さいたま市の06年調査の合計が52.7%であるのに対して、ハイツ比率は61.8%とやや高い。

これらの点からすると、「多い面識」のある人は「生活面での協力」と「立ち話し程度」がほぼ同じくらいでの付き合いがあり、「中位の面識」の人は「立ち話し程度」の付き合いが中心で、「少ない面識」の人は「あいさつ程度」の付き合いが中心となっている。また、全国的にみて、付き合っている人数の割合が高い。

（3）友人・知人との付き合いの頻度

普段のハイツ内の友人・知人との付き合いの程度（表6）をみると、「ときどきある（月に1回一年に数回程度）」（以下、「ときどき」）が29.6%、「ある程度頻繁にある（週に1回一月に数回程度）」（以下、「やや頻繁」）が28.4%、めったにない（年に1回一数年に1回程度）」（以下、「めったにない」）が17.1%、「日常的にある（毎日一週に数回程度）」（以下、「頻繁」）が13.6%、「まったくない（もしくは友人・知人がいない）」（以下、「まったくない」）が10.1%となっている。「やや頻繁」と「ときどき」を合わせて58%と、約6割が週に1回一年に数回の付き合いをしている。

これを近所づきあいの程度でみると、「頻繁」では「生活での協力」が、「やや頻繁」では「立ち話し程度」が、「ときどき」では「立ち話し程度」が、「めったにない」では「あいさつ程度」が、「まったくない」では「あいさつ程度」が、それぞれ最も高い割合を占めている。

「頻繁」な付き合いをする人は、毎日ないし週に数回の頻度で友人・知人に会い、立ち話しだけではなく生活面での密接な付き合いをしている。「やや頻繁」な付き合いをする人は、「立ち話し程度」が55%（54人/98人）と6割弱を占め、「生活面での協力」でも4割（36人/98人）近くを占める。「ときどき」しか付き合いのない人は、「立ち話し程度」が55.8%（57人/102人）と6割弱を占める。「めったにない」人は、「あいさつ程度」が59.3%（35人/59人）と6割を占める。「まったくない」人は、「あいさつ程度」が74.2%（26人/35人）と、「めったにない」人より「あいさつ程度」の割合が高い。

表6

		問15 あなたは、普段どの程度の頻度でハイツ内の友人・知人と付き合っていますか。						
問13 あなたのハイツ内での近所づきあいは、どの程度ですか。		1 日常的にある(毎日一週に数回程度)	2 ある程度頻繁にある(週に1回〜月に数回程度)	3 ときどきある(月に1回〜年に数回程度)	4 めったにない(年に1回〜数年に1回程度)	5 まったくない(もしくは友人・知人がいない)	無回答	総計
1 相談したり、日用品を貸し借りするなど、生活面で協力し合っている人がいる。	実数	24	36	14	0	0	0	74
	%	7.0%	10.4%	4.1%	0.0%	0.0%	0.0%	21.4%
2 日常的に立ち話しをする程度の付き合いはしている。	実数	22	54	57	22	3	0	158
	%	6.4%	15.7%	16.5%	6.4%	0.9%	0.0%	45.8%
3 あいさつ程度の最小限の付き合いしかしていない。	実数	1	8	31	35	26	1	102
	%	0.3%	2.3%	9.0%	10.1%	7.5%	0.3%	29.6%
4 付き合いはまったくしていません。	実数	0	0	0	2	6	0	8
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%	1.7%	0.0%	2.3%
無回答	実数	0	0	0	0	0	3	3
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.9%	0.9%
全体の 実数		47	98	102	59	35	4	345
全体の %		13.6%	28.4%	29.6%	17.1%	10.1%	1.2%	100.0%

同種の質問項目を採用している内閣府とさいたま市の調査結果と比較すると、内閣府の調査では「頻繁」と「やや頻繁」の合計が03年調査では57.7%、05年調査では40.7%、さいたま市の06年調査の合計が53.9%であるのに対して、ハイツ比率は42%と低い。これは近所づきあいが活発で、付き合っている人数も比較的多いことに起因しているものと推察される。

これらの点からすると、友人・知人との関係において頻繁に付き合う人は、近所づきあいにおいても「立ち話し程度」だけでなく「生活面での協力」をする傾向が窺える。また、付き合いの頻度が高くなるほど深い付き合いになる傾向がある。なお、付き合いがまったくないもしくは友人・知人がいないとする人が、全体の1割(35人)存在する。

(4) 性別、居住年数と近所づきあいとの関係

さらに、近所づきあいの程度を性別と居住年数の関係でもう少し詳しくみると、「生活面での協力」では女性の割合が高く、女性の方が親密な付き合いをしている⁽¹⁰⁾。一方、「立ち話し程度」や「あいさつ程度」では男性の割合が高い(表7)。居住年数(表8)で見ると、「生活面での協力」、「立ち話し程度」、「あいさつ程度」のいずれに関しても「30年以上」の占める比率が最も高い。また、「生活面での協力」と「立ち話し程度」では、居住年数が長くなるほど付き合いが活発になる傾向にある。「あいさつ程度」では、いずれの居住年数においても一定割合がいる。

これらの点からすると、親密な付き合いは女性の割合が高いが、立ち話しやあいさつ程度の付き合いでは男性の割合が高い。近所づきあいの程度にかかわらず30年以上の居住

表7

		問13 あなたのハイツ内での近所づきあいは、どの程度ですか。					
問2 あなたの性別は、どちらですか。		1 相談したり、日用品を貸し借りするなど、生活面で協力し合っている人がいる。	2 日常的に立ち話しをする程度の付き合いはしている。	3 あいさつ程度の最小限の付き合いしかしていない。	4 付き合いはまったくしていません。	無回答	総計
1 男	実数 %	28 8.1%	86 24.9%	63 18.3%	7 2.0%	0 0.0%	184 53.3%
2 女	実数 %	44 12.8%	70 20.3%	37 10.7%	1 0.3%	0 0.0%	152 44.1%
無回答	実数 %	2 0.6%	2 0.6%	2 0.6%	0 0.0%	3 0.9%	9 2.6%
全体の 実数		74	158	102	8	3	345
全体の %		21.4%	45.8%	29.6%	2.3%	0.9%	100.0%

表8

		問13 あなたのハイツ内での近所づきあいは、どの程度ですか。					
問3 あなたは、ハイツに住んでどれくらいになりますか。		1 相談したり、日用品を貸し借りするなど、生活面で協力し合っている人がいる。	2 日常的に立ち話しをする程度の付き合いはしている。	3 あいさつ程度の最小限の付き合いしかしていない。	4 付き合いはまったくしていません。	無回答	総計
1 1年以上～5年未満	実数 %	4 1.2%	9 2.6%	11 3.2%	4 1.2%	0 0.0%	28 8.1%
2 5年以上～10年未満	実数 %	2 0.6%	9 2.6%	16 4.6%	1 0.3%	0 0.0%	28 8.1%
3 10年以上～20年未満	実数 %	9 2.6%	19 5.5%	24 7.0%	0 0.0%	0 0.0%	52 15.1%
4 20年以上～30年未満	実数 %	16 4.6%	26 7.5%	21 6.1%	2 0.6%	0 0.0%	65 18.8%
5 30年以上～	実数 %	41 11.9%	93 27.0%	26 7.5%	0 0.0%	0 0.0%	160 46.4%
無回答	実数 %	2 0.6%	2 0.6%	4 1.2%	1 0.3%	3 0.9%	12 3.5%
全体の 実数		74	158	102	8	3	345
全体の %		21.4%	45.8%	29.6%	2.3%	0.9%	100.0%

年数がいずれも最も高い割合となっている。それと同時に居住年数が長くなるほど、それぞれの近所づきあいの割合が高くなる傾向が窺える。

5. 組織・団体活動への意識と参加

(1) 前提

ハイツ内で活動をしている自治会や各種自主的組織・団体に対する認識と活動への参加については、次の考え方や行動を前提としている。すなわち、第1に、ハイツを住みやすくするためには、近所づきあいを通して住民同士の支え合いや助け合いが不可欠である(以下、「助け合いへの意識」)。第2に、ハイツが住みやすくなるための活動には、できる限り参加・協力している(以下、「活動への参加」)。そこで、以下では、この二つを中心に考察する。

(2) 助け合いへの意識

助け合いへの意識(「ハイツでの日常生活における住民間の支え合いや助け合い」)について単純集計結果でみると「おおいにある」(9.3%)と「まあまあある」(49%)の合計が約6割(58.3%)である。逆に、「あまりない」(10.7%)と「まったくない」(3.5%)は1割強(14.2%)である。両者の間には4倍の開きがあり、多くの人が助け合いがあると認識している。

年齢別(表9)でみると、助け合いが「おおいにある」では「70歳～80歳未満」が3.5%、「まあまあある」では同14.5%、「あまりない」では同3.8%と、それぞれ最も高い。「おおいにある」と「まあまあある」共に年齢が高くなるほど、それぞれの年代の割合が高くなる傾向が窺える。

居住年数別(表10)でみると、助け合いが「おおいにある」、「まあまあある」、「どちらともいえない」、「あまりない」の四つは、いずれも「30年以上」の割合が、順に6.1%、25.5%、9.3%、4.3%とそれぞれ最も高い。このうち、「おおいにある」とする人は「30年以上」が65%(21人/32人)、「まあまあある」とする人は同52%(88人/169人)と、それぞれ半数以上を占めている。

性別(表11)でみると、助け合いのいずれの程度においても男性が若干高いものの、ほぼ同じ傾向と言えるだろう。

「ハイツを住みやすくするためには、近所づきあいを通して住民同士の支え合いや助け合いが不可欠である」という点においては、現状において確かに助け合いがあると、約6割が認識している。また、年齢別では、助け合いがあると認める人は年齢が上がるほど積極的に評価し、「70歳以上～80歳未満」の割合が最も高い。居住年数でも長くなるほど積極的に評価し、「30年以上」の割合が最も高い。性別では男性が若干高いものの、ほぼ同じ傾向を示している。

表9

		問16 あなたは、ハイツでの日常生活において、住民間の支え合いや助け合いがあると思いますか。						
問1 あなたの年齢層は、どれですか。		1 おおいに ある	2 まあまあ ある	3 どちらと もいえない	4 あまりな い	5 まったく ない	無回答	総計
1 20歳以上～30歳未満	実数 %	1 0.3%	3 0.9%	1 0.3%	0 0.0%	1 0.3%	0 0.0%	6 1.7%
2 30歳以上～40歳未満	実数 %	1 0.3%	9 2.6%	1 0.3%	1 0.3%	2 0.6%	0 0.0%	14 4.1%
3 40歳上～50歳未満	実数 %	0 0.0%	13 3.8%	5 1.4%	1 0.3%	2 0.6%	0 0.0%	21 6.1%
4 50歳以上～60歳未満	実数 %	3 0.9%	27 7.8%	14 4.1%	8 2.3%	2 0.6%	0 0.0%	54 15.7%
5 60歳以上～70歳未満	実数 %	10 2.9%	45 13.0%	36 10.4%	11 3.2%	4 1.2%	1 0.3%	107 31.0%
6 70歳以上～80歳未満	実数 %	12 3.5%	50 14.5%	27 7.8%	13 3.8%	1 0.3%	1 0.3%	104 30.1%
7 80歳以上	実数 %	5 1.4%	19 5.5%	3 0.9%	3 0.9%	0 0.0%	0 0.0%	30 8.7%
無回答	実数 %	0 0.0%	3 0.9%	3 0.9%	0 0.0%	0 0.0%	3 0.9%	9 2.6%
全体の 実数		32	169	90	37	12	5	345
全体の %		9.3%	49.0%	26.1%	10.7%	3.5%	1.4%	100.0%

表10

		問16 あなたは、ハイツでの日常生活において、住民間の支え合いや助け合いがあると思いますか。						
問3 あなたは、ハイツに住んでどれくらいになりますか。		1 おおいに ある	2 まあまあ ある	3 どちらと もいえない	4 あまりな い	5 まったく ない	無回答	総計
1 1年以上～5年未満	実数 %	3 0.9%	9 2.6%	11 3.2%	3 0.9%	2 0.6%	0 0.0%	28 8.1%
2 5年以上～10年未満	実数 %	2 0.6%	13 3.8%	6 1.7%	3 0.9%	4 1.2%	0 0.0%	28 8.1%
3 10年以上～20年未満	実数 %	3 0.9%	18 5.2%	24 7.0%	7 2.0%	0 0.0%	0 0.0%	52 15.1%
4 20年以上～30年未満	実数 %	3 0.9%	37 10.7%	14 4.1%	9 2.6%	1 0.3%	1 0.3%	65 18.8%
5 30年以上～	実数 %	21 6.1%	88 25.5%	32 9.3%	15 4.3%	3 0.9%	1 0.3%	160 46.4%
無回答	実数 %	0 0.0%	4 1.2%	3 0.9%	0 0.0%	2 0.6%	3 0.9%	12 3.5%
全体の 実数		32	169	90	37	12	5	345
全体の %		9.3%	49.0%	26.1%	10.7%	3.5%	1.4%	100.0%

表11

		問16 あなたは、ハイツでの日常生活において、住民間の支え合いや助け合いがあると思いますか。						
問2 あなたの性別は、どちらですか。		1 おおいに ある	2 まあまあ ある	3 どちらと もいえない	4 あまりな い	5 まったく ない	無回答	総計
1 男	実数 %	17 4.9%	90 26.1%	45 13.0%	23 6.7%	8 2.3%	1 0.3%	184 53.3%
2 女	実数 %	15 4.3%	76 22.0%	42 12.2%	14 4.1%	4 1.2%	1 0.3%	152 44.1%
無回答	実数 %	0 0.0%	3 0.9%	3 0.9%	0 0.0%	0 0.0%	3 0.9%	9 2.6%
全体の 実数		32	169	90	37	12	5	345
全体の %		9.3%	49.0%	26.1%	10.7%	3.5%	1.4%	100.0%

表12

自主的組織・団体	1. 知っている	2. 知らない	無回答	合計
イ. 緑化推進本部	87%	8%	6%	100%
ロ. わくわく自然園を守り育てる会	76%	17%	6%	100%
ハ. 生ごみリサイクルを進める会	85%	9%	6%	100%
ニ. 楽農クラブ	45%	45%	11%	100%
ホ. アルミ缶リサイクルの会	81%	13%	7%	100%
ヘ. 子供育成会	87%	8%	5%	100%
ト. あおやぎ文庫	86%	9%	5%	100%
チ. まるたの会	72%	22%	6%	100%
リ. 秩父荒川交流実行委員会	78%	16%	6%	100%
ヌ. 寿会	86%	9%	6%	100%
ル. 福祉の会・風見どり	72%	22%	7%	100%
オ. 花木会	70%	24%	6%	100%
ワ. たすけあいの輪	46%	44%	10%	100%
カ. 青空サロン	53%	37%	11%	100%
ヨ. たまごルーム	30%	59%	11%	100%
タ. NPO法人グリーンオフィスさやま(NPOじおす)	63%	28%	9%	100%

(3) 活動への参加

ハイツには管理組合と自治会を除いて、生ごみリサイクルを進める会や子供育成会など各種の自主的組織・団体がある。単純集計の結果から、各種組織・団体の存在を知っているか否かをみると、楽農クラブ(45%)、たすけあいの輪(46%)、青空サロン(53%)、たまごルーム(30%)の認知度がやや低いものの、その他の組織・団体はすべて6割以上の人が知っている(表12)。

それらの活動の状況については、「非常に盛んであると思う。」(以下、「非常に盛ん」と「ある程度は行われていると思う。」(以下、「やや盛ん」)を合わせると、約9割に達している。

これを年齢別(表13)でみると、「非常に盛ん」では「70歳以上～80歳未満」が16.5%、「やや盛ん」では「60歳以上～70歳未満」が12.2%と、それぞれ最も高い。盛んであると認める人は60歳～80歳に集中している。また、年齢が高くなるにつれ活動が盛んであると高く評価する傾向が窺える。

居住年数別(表14)でみると、年齢と同様に、活動が盛んであると評価する人は居住歴が長く、中でも「30年以上～」の占める割合が高い。また、居住年数が長くなるにつれ活動が盛んであると積極的に評価する傾向が窺える。性別(表15)でみると、男性の方が活動をやや高く評価している。

次に、こうした自主的組織・団体への参加の実態をみると、全回答者のうち31.3%(108人/345人)の参加に止まっており、自主組織・団体への高い評価と対照的な結果となっている。同種の質問項目を採用している内閣府とさいたま市の調査結果と比較すると、内閣府の調査では活動への参加が03年調査では35.5%、05年調査では20.7%、さいたま市の06年調査が31%であるのに対して、ハイツ比率も同じような状況にある。参加者のうち「ほとんど参加している」という積極型が47.2%、「重要な時だけ参加している」というその都度型が33.3%と、参加の程度は二つに分かれる。

表 13

		問19 あなたは、問18の表中のイータの各種組織や団体の活動が盛んだと感じますか。					
問1 あなたの年齢層は、どれですか。		1 非常に盛んだと思う。	2 ある程度は行われていると思う。	3 ほとんど活動は行われていないと思う。	4 わからない。	無回答	総計
1 20歳以上～30歳未満	実数 %	0 0.0%	4 1.2%	0 0.0%	2 0.6%	0 0.0%	6 1.7%
2 30歳以上～40歳未満	実数 %	5 1.4%	8 2.3%	0 0.0%	1 0.3%	0 0.0%	14 4.1%
3 40歳上～50歳未満	実数 %	11 3.2%	10 2.9%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	21 6.1%
4 50歳以上～60歳未満	実数 %	22 6.4%	26 7.5%	0 0.0%	6 1.7%	0 0.0%	54 15.7%
5 60歳以上～70歳未満	実数 %	54 15.7%	42 12.2%	0 0.0%	9 2.6%	2 0.6%	107 31.0%
6 70歳以上～80歳未満	実数 %	57 16.5%	39 11.3%	1 0.3%	4 1.2%	3 0.9%	104 30.1%
7 80歳以上	実数 %	16 4.6%	9 2.6%	0 0.0%	4 1.2%	1 0.3%	30 8.7%
無回答	実数 %	2 0.6%	3 0.9%	0 0.0%	1 0.3%	3 0.9%	9 2.6%
全体の 実数		167	141	1	27	9	345
全体の %		48.4%	40.9%	0.3%	7.8%	2.6%	100.0%

表 14

		問19 あなたは、問18の表中のイータの各種組織や団体の活動が盛んだと感じますか。					
問3 あなたは、ハイツに住んでどれくらいになりますか。		1 非常に盛んだと思う。	2 ある程度は行われていると思う。	3 ほとんど活動は行われていないと思う。	4 わからない。	無回答	総計
1 1年以上～5年未満	実数 %	6 1.7%	17 4.9%	0 0.0%	5 1.4%	0 0.0%	28 8.1%
2 5年以上～10年未満	実数 %	8 2.3%	16 4.6%	0 0.0%	4 1.2%	0 0.0%	28 8.1%
3 10年以上～20年未満	実数 %	27 7.8%	18 5.2%	0 0.0%	7 2.0%	0 0.0%	52 15.1%
4 20年以上～30年未満	実数 %	31 9.0%	27 7.8%	0 0.0%	5 1.4%	2 0.6%	65 18.8%
5 30年以上～	実数 %	92 26.7%	59 17.1%	1 0.3%	4 1.2%	4 1.2%	160 46.4%
無回答	実数 %	3 0.9%	4 1.2%	0 0.0%	2 0.6%	3 0.9%	12 3.5%
全体の 実数		167	141	1	27	9	345
全体の %		48.4%	40.9%	0.3%	7.8%	2.6%	100.0%

表 15

		問19 あなたは、問18の表中のイータの各種組織や団体の活動が盛んだと感じますか。					
問2 あなたの性別は、どちらですか。		1 非常に盛んだと思う。	2 ある程度は行われていると思う。	3 ほとんど活動は行われていないと思う。	4 わからない。	無回答	総計
1 男	実数 %	92 26.7%	72 20.9%	1 0.3%	17 4.9%	2 0.6%	184 53.3%
2 女	実数 %	73 21.2%	66 19.1%	0 0.0%	9 2.6%	4 1.2%	152 44.1%
無回答	実数 %	2 0.6%	3 0.9%	0 0.0%	1 0.3%	3 0.9%	9 2.6%
全体の 実数		167	141	1	27	9	345
全体の %		48.4%	40.9%	0.3%	7.8%	2.6%	100.0%

表16

		問20-1 ハイツ内の組織・団体に参加していますか。		
問1 あなたの年齢層は、どれですか。		参加	無回答・不参加	総計
1	20歳以上～30歳未満	実数 1 0.3%	5 1.4%	6 1.7%
2	30歳以上～40歳未満	実数 2 0.6%	12 3.5%	14 4.1%
3	40歳以上～50歳未満	実数 5 1.4%	16 4.6%	21 6.1%
4	50歳以上～60歳未満	実数 4 1.2%	50 14.5%	54 15.7%
5	60歳以上～70歳未満	実数 33 9.6%	74 21.4%	107 31.0%
6	70歳以上～80歳未満	実数 48 13.9%	56 16.2%	104 30.1%
7	80歳以上	実数 14 4.1%	16 4.6%	30 8.7%
	無回答	実数 1 0.3%	8 2.3%	9 2.6%
全体の 実数		108	237	345
全体の %		31.3%	68.7%	100.0%

注) 問20-1の質問文を「参加の有無」に変更。あわせて再集計。

表17

		問20-1 ハイツ内の組織・団体に参加していますか。		
問3 あなたは、ハイツに住んでどれくらいになりますか。		参加	無回答・不参加	総計
1	1年以上～5年未満	実数 2 0.6%	26 7.5%	28 8.1%
2	5年以上～10年未満	実数 3 0.9%	25 7.2%	28 8.1%
3	10年以上～20年未満	実数 16 4.6%	36 10.4%	52 15.1%
4	20年以上～30年未満	実数 15 4.3%	50 14.5%	65 18.8%
5	30年以上～	実数 71 20.6%	89 25.8%	160 46.4%
	無回答	実数 1 0.3%	11 3.2%	12 3.5%
全体の 実数		108	237	345
全体の %		31.3%	68.7%	100.0%

注) 問20-1の質問文を「参加の有無」に変更。あわせて再集計。

表18

		問20-1 ハイツ内の組織・団体に参加していますか。		
問2 あなたの性別は、どちらですか。		参加	無回答・不参加	総計
1	男	実数 60 17.4%	124 35.9%	184 53.3%
2	女	実数 47 13.6%	105 30.4%	152 44.1%
	無回答	実数 1 0.3%	8 2.3%	9 2.6%
全体の 実数		108	237	345
全体の %		31.3%	68.7%	100.0%

注) 問20-1の質問文を「参加の有無」に変更。あわせて再集計。

参加の実態をまず年齢別(表16)で見ると、「70歳以上～80歳未満」と「60歳以上～70歳未満」の合計が全回答者の23%に過ぎないが、参加している人の75%(81/108)を占める。

居住年数別(表17)で見ると、「30年以上～」が全回答者の20.6%に過ぎないが、参加している人の65.7(71人/108人)と7割近くを占める。

表19

		問20-1 ハイソ内の組織・団体に参加していますか。		
問7 あなたの年収は(年金を含む)は、どれくらいですか。		参加	無回答・不参加	総計
1 200万円未満	実数 %	34 9.9%	78 22.6%	112 32.5%
2 200万円以上～400万円未満	実数 %	51 14.8%	90 26.1%	141 40.9%
3 400万円以上～600万円未満	実数 %	15 4.3%	26 7.5%	41 11.9%
4 600万円以上～800万円未満	実数 %	2 0.6%	15 4.3%	17 4.9%
5 800万円以上～1,000万円未満	実数 %	0 0.0%	5 1.4%	5 1.4%
6 1,000万円以上～1,200万円未満	実数 %	0 0.0%	1 0.3%	1 0.3%
7 1,200万円以上～	実数 %	0 0.0%	1 0.3%	1 0.3%
8 わからない	実数 %	2 0.6%	8 2.3%	10 2.9%
無回答	実数 %	4 1.2%	13 3.8%	17 4.9%
全体の 実数		108	237	345
全体の %		31.3%	68.7%	100.0%

注) 問20-1の質問文を「参加の有無」に変更、あわせて再集計。

表20

		問21-2 あなたの自治会役員の経験回数は、どれくらいですか。			
問1 あなたの年齢層は、どれですか。		1 1回	2 2回以上	無回答・未経験	総計
1 20歳以上～30歳未満	実数 %	0 0.0%	1 0.3%	5 1.4%	6 1.7%
2 30歳以上～40歳未満	実数 %	3 0.9%	1 0.3%	10 2.9%	14 4.1%
3 40歳上～50歳未満	実数 %	4 1.2%	4 1.2%	13 3.8%	21 6.1%
4 50歳以上～60歳未満	実数 %	19 5.5%	13 3.8%	22 6.4%	54 15.7%
5 60歳以上～70歳未満	実数 %	22 6.4%	49 14.2%	36 10.4%	107 31.0%
6 70歳以上～80歳未満	実数 %	28 8.1%	31 9.0%	45 13.0%	104 30.1%
7 80歳以上	実数 %	4 1.2%	7 2.0%	19 5.5%	30 8.7%
無回答	実数 %	0 0.0%	5 1.4%	4 1.2%	9 2.6%
全体の 実数		80	111	154	345
全体の %		23.2%	32.2%	44.6%	100.0%

注) 問21-2の選択肢のうち2回以上の合計で集計。

性別(表18)で見ると、男性の参加の割合が高い。

所得別(表19)で見ると、「200万円以上～400万円未満」と「200万円～400万円未満」の割合が高い。

次に、もう一つの参加として、自治会の役員の経験を単純集計の結果をもとにみると、全回答者のうち55.4%(192人)が経験を持っている。このうち、2回以上の役員経験を持つ人の割合は32.2%(111人)となっている。

2回以上の経験者を年齢別(表20)で見ると、「60歳以上～70歳未満」(14.2%)が最も高く、次いで「70歳以上～80歳未満」(9%)であるが、経験者のそれぞれ44.1%、27.9%

表 2 1

		問21-2 あなたの自治会役員の経験回数は、どれくらいですか。			
問3 あなたは、ハイツに住んでどれくらいになりますか。		1 1回	2 2回以上	無回答・未経験	総計
1 1年以上～5年未満	実数 %	4 1.2%	0 0.0%	24 7.0%	28 8.1%
2 5年以上～10年未満	実数 %	9 2.6%	4 1.2%	15 4.3%	28 8.1%
3 10年以上～20年未満	実数 %	14 4.1%	15 4.3%	23 6.7%	52 15.1%
4 20年以上～30年未満	実数 %	15 4.3%	26 7.5%	24 7.0%	65 18.8%
5 30年以上～	実数 %	38 11.0%	61 17.7%	61 17.7%	160 46.4%
無回答	実数 %	0 0.0%	5 1.4%	7 2.0%	12 3.5%
全体の 実数		80	111	154	345
全体の %		23.2%	32.2%	44.6%	100.0%

注) 問21-2の選択肢のうち2回以上の合計に再集計。

表 2 2

		問21-2 あなたの自治会役員の経験回数は、どれくらいですか。			
問2 あなたの性別は、どちらですか。		1 1回	2 2回以上	無回答・未経験	総計
1 男	実数 %	42 12.2%	52 15.1%	90 26.1%	184 53.3%
2 女	実数 %	38 11.0%	54 15.7%	60 17.4%	152 44.1%
無回答	実数 %	0 0.0%	5 1.4%	4 1.2%	9 2.6%
全体の 実数		80	111	154	345
全体の %		23.2%	32.2%	44.6%	100.0%

注) 問21-2の選択肢のうち2回以上の合計に再集計

(49人/111人、31人/111人) で、合わせて72%を占める。

居住年数別(表21)で見ると、「1回」、「2回以上」共に「30年以上～」がそれぞれ最も高く、それぞれ11%、17.7%を占める。「1回」では47.5%(38人/80人)、「2回以上」では55%(61人/111人)を占める。

性別(表22)で見ると、「1回」「2回以上」共に男女ほぼ半々の経験を持っている。

なお、ハイツの自治会加入率は現在85%である。

「ハイツが住みやすくなるための活動には、できる限り参加・協力している」という活動への参加においては、ほとんどの自主組織・団体は居住者に知られており、その組織・団体の活動も9割の人が活発であると評価している。このような積極的ないし肯定的な評価は、年齢が高くなるほど、居住年数が長くなるほど高まる傾向にある。

これに対して、実際の参加は3割に止まっている。参加の程度は、ほとんど参加の積極型が約5割、重要な時だけ参加のその都度型が3割強で、年齢が高くなるほど、居住年数が長くなるほど参加する傾向にある。男性の参加が多い。参加者の所得では、200万円から400万円未満が中心である。自治会の役員の経験では、複数の経験者が3割強を占める。

これらの点からすると、活動への参加は3割に止まっているが、参加する人は、60歳以上から80歳未満の高齢者で、居住年数も30年以上と長く、自治会役員の経験があり、年

収が400万円以下となっている。

そこで、活動への参加者（社会参加）と自治会役員経験者の特徴については後述する。

6. ハイツの信頼

（1）一般的信頼

ハイツ居住者の個別的な信頼の前提となる、他人に対する一般的な信頼関係を単純集計結果からみると、「ほとんどの人は信頼できる」(9.6%)と「ある程度は信頼できる」(58.6%)を合わせた「信頼できる」とする肯定的な認識が7割弱(68.2%)と高く、逆に「信頼できない」(0.6%)や「わからない」(7%)は1割弱と非常に低い。

同種の質問項目を採用している内閣府とさいたま市の調査結果と比較すると、内閣府の調査では「ほとんどの人は信頼できる」と「ある程度は信頼できる」の合計が03年調査では24.8%、05年調査では16%、さいたま市の06年調査の合計が18.2%であるのに対して、ハイツ比率は68.2%と、居住者の一般的信頼に対する肯定的な認識が非常に高い。

年齢別(表23)でみると、「ほとんど信頼できる」では「60歳以上～70歳未満」と「70歳以上～80歳未満」に集中し、「ほとんど信頼できる」とする人のうち前者が30.3%(10人/33人)、後者が36.4%(12人/33人)で合わせて66.7%を占める。「ある程度は信頼できる」では「60歳以上～70歳未満」と「70歳以上～80歳未満」に集中し、「ある程度は信頼できる」とする人のうち前者が31.7%(64人/202人)、後者が32.2%(65人/202人)で合わせて63.9%を占める。信頼できるとする人は、年齢が高くなるにつれ割合が高くなる傾向にある。

居住年数(表24)でみると、「ほとんど信頼できる」と「ある程度は信頼できる」は共に「30年以上～」が占める割合が最も高い。前者のうち「30年以上～」は72.7%(24人/33人)、後者が48%(97人/202人)をそれぞれ占める。信頼できるとする人は、居住年数が長くなるほど高まる傾向にある。

性別(表25)でみると、男性の方の「ほとんど人は信頼できる」と「ある程度は信頼できる」が高い。

これらの点からすると、一般的な信頼について、全国的にみても非常に高く、信頼できるという肯定的な回答者は、年齢的に60歳以上の高齢者が多く、30年以上と居住年数が長いことから、年齢と居住年数が信頼形成にかかわることがわかる。また、男性の方が女性より信頼度が高い。

（2）個別的信頼

ハイツ内の居住者に限定してみた個別的信頼では、年齢別、居住年数別、性別のいずれも、先の一般的信頼とほぼ同じ傾向である。ただ、「信頼できる」(「ほとんどの人は信頼できる」+「ある程度は信頼できる」)とする肯定的な認識は、一般的信頼(68.2%)に比べ

表23

		問25 あなたは、一般的に人に対する信頼についてどう考えますか。あなたの考え方に近いと思うものを1つ選んでください。							
問1 あなたの年齢層は、どれですか。		1 ほとんどの人は信頼できる	2 ある程度は信頼できる	3 注意することに越したことはない	4 信頼できない	5 わからない	無回答	総計	
1 20歳以上～30歳未満	実数 %	0 0.0%	1 0.3%	4 1.2%	0 0.0%	1 0.3%	0 0.0%	6 1.7%	
2 30歳以上～40歳未満	実数 %	0 0.0%	9 2.6%	5 1.4%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	14 4.1%	
3 40歳以上～50歳未満	実数 %	2 0.6%	9 2.6%	9 2.6%	0 0.0%	1 0.3%	0 0.0%	21 6.1%	
4 50歳以上～60歳未満	実数 %	4 1.2%	31 9.0%	18 5.2%	0 0.0%	1 0.3%	0 0.0%	54 15.7%	
5 60歳以上～70歳未満	実数 %	10 2.9%	64 18.6%	18 5.2%	2 0.6%	12 3.5%	1 0.3%	107 31.0%	
6 70歳以上～80歳未満	実数 %	12 3.5%	65 18.8%	19 5.5%	0 0.0%	7 2.0%	1 0.3%	104 30.1%	
7 80歳以上	実数 %	5 1.4%	18 5.2%	5 1.4%	0 0.0%	2 0.6%	0 0.0%	30 8.7%	
無回答	実数 %	0 0.0%	5 1.4%	1 0.3%	0 0.0%	0 0.0%	3 0.9%	9 2.6%	
全体の 実数		33	202	79	2	24	5	345	
全体の %		9.6%	58.6%	22.9%	0.6%	7.0%	1.4%	100.0%	

表24

		問25 あなたは、一般的に人に対する信頼についてどう考えますか。あなたの考え方に近いと思うものを1つ選んでください。							
問3 あなたは、ハイツに住んでどれくらいになりますか。		1 ほとんどの人は信頼できる	2 ある程度は信頼できる	3 注意することに越したことはない	4 信頼できない	5 わからない	無回答	総計	
1 1年以上～5年未満	実数 %	0 0.0%	13 3.8%	13 3.8%	0 0.0%	2 0.6%	0 0.0%	28 8.1%	
2 5年以上～10年未満	実数 %	1 0.3%	16 4.6%	9 2.6%	1 0.3%	1 0.3%	0 0.0%	28 8.1%	
3 10年以上～20年未満	実数 %	3 0.9%	31 9.0%	12 3.5%	0 0.0%	6 1.7%	0 0.0%	52 15.1%	
4 20年以上～30年未満	実数 %	5 1.4%	38 11.0%	16 4.6%	1 0.3%	4 1.2%	1 0.3%	65 18.8%	
5 30年以上～	実数 %	24 7.0%	97 28.1%	28 8.1%	0 0.0%	10 2.9%	1 0.3%	160 46.4%	
無回答	実数 %	0 0.0%	7 2.0%	1 0.3%	0 0.0%	1 0.3%	3 0.9%	12 3.5%	
全体の 実数		33	202	79	2	24	5	345	
全体の %		9.6%	58.6%	22.9%	0.6%	7.0%	1.4%	100.0%	

表25

		問25 あなたは、一般的に人に対する信頼についてどう考えますか。あなたの考え方に近いと思うものを1つ選んでください。							
問2 あなたの性別は、どちらですか。		1 ほとんどの人は信頼できる	2 ある程度は信頼できる	3 注意することに越したことはない	4 信頼できない	5 わからない	無回答	総計	
1 男	実数 %	25 7.2%	105 30.4%	41 11.9%	0 0.0%	12 3.5%	1 0.3%	184 53.3%	
2 女	実数 %	8 2.3%	92 26.7%	37 10.7%	2 0.6%	12 3.5%	1 0.3%	152 44.1%	
無回答	実数 %	0 0.0%	5 1.4%	1 0.3%	0 0.0%	0 0.0%	3 0.9%	9 2.6%	
全体の 実数		33	202	79	2	24	5	345	
全体の %		9.6%	58.6%	22.9%	0.6%	7.0%	1.4%	100.0%	

表 26

		問26-1 あなたは、ハイツ内に住んでいる人に対する信頼についてどう考えますか。あなたの考え方に近いと思うものを1つ選んで下さい。						
問1 あなたの年齢層は、どれですか。		1 ほとんどの人は信頼できる	2 ある程度は信頼できる	3 注意することに越したことはない	4 信頼できない	5 わからない	無回答	総計
1 20歳以上～30歳未満	実数 %	0 0.0%	3 0.9%	2 0.6%	0 0.0%	1 0.3%	0 0.0%	6 1.7%
2 30歳以上～40歳未満	実数 %	1 0.3%	8 2.3%	2 0.6%	2 0.6%	1 0.3%	0 0.0%	14 4.1%
3 40歳以上～50歳未満	実数 %	2 0.6%	13 3.8%	6 1.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	21 6.1%
4 50歳以上～60歳未満	実数 %	5 1.4%	36 10.4%	11 3.2%	0 0.0%	2 0.6%	0 0.0%	54 15.7%
5 60歳以上～70歳未満	実数 %	13 3.8%	64 18.6%	15 4.3%	4 1.2%	10 2.9%	1 0.3%	107 31.0%
6 70歳以上～80歳未満	実数 %	22 6.4%	58 16.8%	17 4.9%	0 0.0%	5 1.4%	2 0.6%	104 30.1%
7 80歳以上	実数 %	7 2.0%	20 5.8%	2 0.6%	0 0.0%	1 0.3%	0 0.0%	30 8.7%
無回答	実数 %	1 0.3%	3 0.9%	2 0.6%	0 0.0%	0 0.0%	3 0.9%	9 2.6%
全体の 実数		51	205	57	6	20	6	345
全体の %		14.8%	59.4%	16.5%	1.7%	5.8%	1.7%	100.0%

幾分だが個別的信頼（74.2%）の方が高い。

年齢別（表 26、表 23）で見ると、一般的信頼では「注意したことに越したことはない」という慎重派と「ほとんどの人は信頼できる」という全幅派が少ない。

居住年数別（表 27、表 24）で見ると、年齢と同じ傾向を示している。

性別（表 28、表 25）では、一般的信頼も個別的信頼にも大きな変化はないものの、共通した傾向として、男性の方が「信頼できる」とする肯定派が多い。

これらの点からすると、具体的な居住者を想定した個別的信頼では、肯定的な回答者は一般的信頼よりも全体として「信頼できる」層が多く、年齢や居住年数が増えると信頼度が高まる傾向にあり、しかも男性の方に高い傾向が窺える。

（3）個別的信頼の形成要因

個別的信頼を形成する主な理由を単純集計の結果を基にみると、「ある程度の人と面識・交流があるから」が43.5%と最も高く、次いで「近所のごく少数の人とだけ面識・交流があるから」の30.4%で、全体の73.9%を占める。

年齢別（表 29）で見ると、「かなり多くの人と面識・交流があるから」は「70歳以上～80歳未満」、「ある程度の人と面識・交流があるから」は「60歳以上～70歳未満」と「70歳以上～80歳未満」に、「近所のごく少数の人とだけ面識・交流があるから」は「50歳以上～80歳未満」にそれぞれ集中している。「近所のごく少数の人とだけ面識・交流があるから」→ある程度の人と面識・交流があるから→「かなり多くの人と面識・交流があるから」へと年齢層の高い人が占める割合が高くなる傾向にある。

表27

		問26-1 あなたは、ハイツ内に住んでいる人に対する信頼についてどう考えますか。あなたの考え方に近いと思うものを1つ選んで下さい。						
問3 あなたは、ハイツに住んでどれくらいになりますか。		1 ほとんどの人は信頼できる	2 ある程度は信頼できる	3 注意すること越しなことはない	4 信頼できない	5 わからない	無回答	総計
1 1年以上～5年未満	実数 %	2 0.6%	14 4.1%	8 2.3%	0 0.0%	4 1.2%	0 0.0%	28 8.1%
2 5年以上～10年未満	実数 %	1 0.3%	17 4.9%	6 1.7%	3 0.9%	1 0.3%	0 0.0%	28 8.1%
3 10年以上～20年未満	実数 %	3 0.9%	33 9.6%	11 3.2%	1 0.3%	4 1.2%	0 0.0%	52 15.1%
4 20年以上～30年未満	実数 %	8 2.3%	39 11.3%	12 3.5%	2 0.6%	3 0.9%	1 0.3%	65 18.8%
5 30年以上～	実数 %	36 10.4%	98 28.4%	18 5.2%	0 0.0%	6 1.7%	2 0.6%	160 46.4%
無回答	実数 %	1 0.3%	4 1.2%	2 0.6%	0 0.0%	2 0.6%	3 0.9%	12 3.5%
全体の 実数		51	205	57	6	20	6	345
全体の %		14.8%	59.4%	16.5%	1.7%	5.8%	1.7%	100.0%

表28

		問26-1 あなたは、ハイツ内に住んでいる人に対する信頼についてどう考えますか。あなたの考え方に近いと思うものを1つ選んで下さい。						
問2 あなたの性別は、どちらですか。		1 ほとんどの人は信頼できる	2 ある程度は信頼できる	3 注意すること越しなことはない	4 信頼できない	5 わからない	無回答	総計
1 男	実数 %	36 10.4%	106 30.7%	25 7.2%	4 1.2%	12 3.5%	1 0.3%	184 53.3%
2 女	実数 %	14 4.1%	96 27.8%	30 8.7%	2 0.6%	8 2.3%	2 0.6%	152 44.1%
無回答	実数 %	1 0.3%	3 0.9%	2 0.6%	0 0.0%	0 0.0%	3 0.9%	9 2.6%
全体の 実数		51	205	57	6	20	6	345
全体の %		14.8%	59.4%	16.5%	1.7%	5.8%	1.7%	100.0%

居住年数（表30）でみると、「かなり多くの人と面識・交流があるから」、「ある程度の人と面識・交流があるから」、「近所のごく少数の人とだけ面識・交流があるから」のいずれにおいても「30年以上～」の占める割合が最も高い。「ある程度の人と面識・交流があるから」で「30年以上～」とする人は54.7%（82人/150人）で半数を占める。また、外向な理由である「かなり多くの人と面識・交流があるから」や「ある程度の人と面識・交流があるから」と、内向な理由である「近所のごく少数の人とだけ面識・交流があるから」の差が「30年以上～」で最もはっきりと分かれている。

性別（表31）でみると、両者の間に大きな隔たりはないが、若干男性の割合が高い。

個別的信頼と信頼に対する考え方の関係（表32）でみると、「ある程度の人と面識・交流があるから」では「ある程度は信頼できる」が30.7%と最も高く、この理由全体の70.7%（106人/150人）を占める。次いで、「近所のごく少数の人とだけ面識・交流があるから」でも「ある程度は信頼できる」が18%と最も高く、この理由全体の59%（62人/105人）を占める。

表29

		問26-2 あなたが上の「問26-1」で選んだ主な理由は、どんなものですか。						
問1 あなたの年齢層は、どれですか。		1 かなり多くの人と面識・交流があるから	2 ある程度の人と面識・交流があるから	3 近所のごく少数の人とだけ面識・交流があるから	4 隣の人が誰かわからないから	5 その他	無回答	総計
	1 20歳以上～30歳未満	実数 %	0 0.0%	3 0.9%	1 0.3%	1 0.3%	1 0.3%	0 0.0%
2 30歳以上～40歳未満	実数 %	1 0.3%	4 1.2%	5 1.4%	0 0.0%	3 0.9%	1 0.3%	14 4.1%
3 40歳以上～50歳未満	実数 %	2 0.6%	10 2.9%	3 0.9%	1 0.3%	3 0.9%	2 0.6%	21 6.1%
4 50歳以上～60歳未満	実数 %	4 1.2%	16 4.6%	25 7.2%	2 0.6%	4 1.2%	3 0.9%	54 15.7%
5 60歳以上～70歳未満	実数 %	6 1.7%	50 14.5%	31 9.0%	2 0.6%	5 1.4%	13 3.8%	107 31.0%
6 70歳以上～80歳未満	実数 %	12 3.5%	51 14.8%	27 7.8%	3 0.9%	5 1.4%	6 1.7%	104 30.1%
7 80歳以上	実数 %	2 0.6%	15 4.3%	10 2.9%	2 0.6%	0 0.0%	1 0.3%	30 8.7%
無回答	実数 %	1 0.3%	1 0.3%	3 0.9%	0 0.0%	0 0.0%	4 1.2%	9 2.6%
全体の 実数		28	150	105	11	21	30	345
全体の %		8.1%	43.5%	30.4%	3.2%	6.1%	8.7%	100.0%

表30

		問26-2 あなたが上の「問26-1」で選んだ主な理由は、どんなものですか。						
問3 あなたは、ハイツに住んでどれくらいになりますか。		1 かなり多くの人と面識・交流があるから	2 ある程度の人と面識・交流があるから	3 近所のごく少数の人とだけ面識・交流があるから	4 隣の人が誰かわからないから	5 その他	無回答	総計
	1 1年以上～5年未満	実数 %	0 0.0%	7 2.0%	13 3.8%	4 1.2%	1 0.3%	3 0.9%
2 5年以上～10年未満	実数 %	2 0.6%	7 2.0%	14 4.1%	2 0.6%	2 0.6%	1 0.3%	28 8.1%
3 10年以上～20年未満	実数 %	5 1.4%	19 5.5%	16 4.6%	0 0.0%	9 2.6%	3 0.9%	52 15.1%
4 20年以上～30年未満	実数 %	1 0.3%	34 9.9%	18 5.2%	3 0.9%	2 0.6%	7 2.0%	65 18.8%
5 30年以上～	実数 %	19 5.5%	82 23.8%	41 11.9%	2 0.6%	5 1.4%	11 3.2%	160 46.4%
無回答	実数 %	1 0.3%	1 0.3%	3 0.9%	0 0.0%	2 0.6%	5 1.4%	12 3.5%
全体の 実数		28	150	105	11	21	30	345
全体の %		8.1%	43.5%	30.4%	3.2%	6.1%	8.7%	100.0%

表31

		問26-2 あなたが上の「問26-1」で選んだ主な理由は、どんなものですか。						
問2 あなたの性別は、どちらですか。		1 かなり多くの人と面識・交流があるから	2 ある程度の人と面識・交流があるから	3 近所のごく少数の人とだけ面識・交流があるから	4 隣の人が誰かわからないから	5 その他	無回答	総計
	1 男	実数 %	17 4.9%	80 23.2%	54 15.7%	10 2.9%	13 3.8%	10 2.9%
2 女	実数 %	10 2.9%	69 20.0%	48 13.9%	1 0.3%	8 2.3%	16 4.6%	152 44.1%
無回答	実数 %	1 0.3%	1 0.3%	3 0.9%	0 0.0%	0 0.0%	4 1.2%	9 2.6%
全体の 実数		28	150	105	11	21	30	345
全体の %		8.1%	43.5%	30.4%	3.2%	6.1%	8.7%	100.0%

表32

		問26-2 あなたが上の「問26-1」で選んだ主な理由は、どんなものですか。						
問26-1 あなたは、ハイツ内に住んでいる人に対する信頼についてどう考えますか。あなたの考え方に近いと思うものを1つ選んで下さい。		1 かなり多くの人と面識・交流があるから	2 ある程度の人と面識・交流があるから	3 近所のごく少数の人とだけ面識・交流があるから	4 隣の人が誰かわからないから	5 その他	無回答	総計
1 ほとんどの人は信頼できる	実数 %	12 3.5%	29 8.4%	8 2.3%	0 0.0%	2 0.6%	0 0.0%	51 14.8%
2 ある程度は信頼できる	実数 %	15 4.3%	106 30.7%	62 18.0%	4 1.2%	4 1.2%	14 4.1%	205 59.4%
3 注意することに越したことはない	実数 %	0 0.0%	13 3.8%	26 7.5%	2 0.6%	10 2.9%	6 1.7%	57 16.5%
4 信頼できない	実数 %	1 0.3%	0 0.0%	2 0.6%	0 0.0%	2 0.6%	1 0.3%	6 1.7%
5 わからない	実数 %	0 0.0%	2 0.6%	6 1.7%	5 1.4%	3 0.9%	4 1.2%	20 5.8%
無回答	実数 %	0 0.0%	0 0.0%	1 0.3%	0 0.0%	0 0.0%	5 1.4%	6 1.7%
全体の 実数		28	150	105	11	21	30	345
全体の %		8.1%	43.5%	30.4%	3.2%	6.1%	8.7%	100.0%

これらの点からすると、個別的信頼の形成には、近所のごく限られた人との面識・交流より、むしろある程度の人との面識・交流やかなりの多くの人との面識・交流が必要であり、中でも年齢が60歳以上で、居住年数では30年以上にその傾向が強い。

7. 近所づきあい、助け合い、社会参加と信頼との関係

(1) 近所づきあい、助け合い、社会参加と信頼との関係

ハイツ内での近所づきあいの程度、付き合っている人数、友人・知人との付き合いの頻度、支え合い・助け合いの程度と一般的信頼との関係を以下にみる。

一般的信頼と近所づきあいの関係(表33)でみると、「ほとんどの人は信頼できる」、「ある程度は信頼できる」、「注意することに越したことはない」のいずれにおいても、「立ち話し程度」の占める割合が最も高い。「ほとんどの人は信頼できる」のうち「立ち話し程度」の割合は63.6%(5人/33人)、「ある程度は信頼できる」のうち46%(93人/202人)、「注意することに越したことはない」のうち48.1%(38人/79人)と、一般的信頼の項目のそれぞれの合計に対する割合が高く、中でも「ほとんどの人は信頼できる」割合が6割に達する。

これらの点からすると、一般的信頼には「立ち話し程度」の付き合いが重要であり、中でも「ほとんどの人は信頼できる」という全幅派の「立ち話し程度」の付き合いがひと際多い。逆に、「注意することに越したことはない」という慎重派は、「あいさつ程度」の付き合いが多い。信頼の程度は、何気ない普段の立ち話しによって影響を受けていると考えられる。

付き合っている人数、友人・知人との付き合いの頻度、支え合い・助け合いと一般的信頼のそれぞれの関係を順次みていく。付き合っている人数との関係(表34)でみると、「ほ

表33

		問25 あなたは、一般的に人に対する信頼についてどう考えますか。あなたの考え方に近いと思うものを1つ選んでください。						
問13 あなたのハイツ内での近所づきあいは、どの程度ですか。		1 ほとんどの人は信頼できる	2 ある程度は信頼できる	3 注意することにはない	4 信頼できない	5 わからない	無回答	総計
1 相談したり、日用品を貸し借りするなど、生活面で協力し合っている人がいる。	実数	5	54	11	0	3	1	74
	%	1.4%	15.7%	3.2%	0.0%	0.9%	0.3%	21.4%
2 日常的に立話しをする程度の付き合いはしている。	実数	21	93	38	0	6	0	158
	%	6.1%	27.0%	11.0%	0.0%	1.7%	0.0%	45.8%
3 あいさつ程度の最小限の付き合いしかしてない。	実数	7	53	27	2	12	1	102
	%	2.0%	15.4%	7.8%	0.6%	3.5%	0.3%	29.6%
4 付き合いはまったくしてない。	実数	0	2	3	0	3	0	8
	%	0.0%	0.6%	0.9%	0.0%	0.9%	0.0%	2.3%
無回答	実数	0	0	0	0	0	3	3
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.9%	0.9%
全体の 実数		33	202	79	2	24	5	345
全体の %		9.6%	58.6%	22.9%	0.6%	7.0%	1.4%	100.0%

表34

		問25 あなたは、一般的に人に対する信頼についてどう考えますか。あなたの考え方に近いと思うものを1つ選んでください。						
問14 あなたの付き合いしているハイツ内の人数の程度は、どれくらいですか。		1 ほとんどの人は信頼できる	2 ある程度は信頼できる	3 注意することにはない	4 信頼できない	5 わからない	無回答	総計
1 かなり多くの人と面識・交流がある (概ね20人以上)	実数	8	33	10	0	3	0	54
	%	2.3%	9.6%	2.9%	0.0%	0.9%	0.0%	15.7%
2 ある程度の人と面識・交流がある (概ね5人~19人)	実数	18	103	30	0	7	1	159
	%	5.2%	29.9%	8.7%	0.0%	2.0%	0.3%	46.1%
3 近所のごく少数の人だけ面識・交流がある (概ね4人以下)	実数	7	58	37	2	10	0	114
	%	2.0%	16.8%	10.7%	0.6%	2.9%	0.0%	33.0%
4 隣の人が誰かわからない	実数	0	7	2	0	3	0	12
	%	0.0%	2.0%	0.6%	0.0%	0.9%	0.0%	3.5%
無回答	実数	0	1	0	0	1	4	6
	%	0.0%	0.3%	0.0%	0.0%	0.3%	1.2%	1.7%
全体の 実数		33	202	79	2	24	5	345
全体の %		9.6%	58.6%	22.9%	0.6%	7.0%	1.4%	100.0%

とんどの人は信頼できる」と「ある程度は信頼できる」のいずれにおいも「中位の面識」が最も高い。この二つの「中位の面識」の割合は、それぞれの項目全体の5割強（18人/33人、103人/202人）を占める。「注意することにはない」では「少ない面識」が最も高く、10.7%であり、項目全体の5割弱（37人/79人）である。信頼の程度は、「中位の面識」が影響していると考えられる。

表 3 5

		問25 あなたは、一般的に人に対する信頼についてどう考えますか。あなたの考え方に近いと思うものを1つ選んでください。						
問15 あなたは、普段どの程度の頻度でハイツ内の友人・知人と付き合っていますか。		1 ほとんどの人は信頼できる	2 ある程度は信頼できる	3 注意することに越したことはない	4 信頼できない	5 わからない	無回答	総計
1 日常的にある (毎日～週に数回程度)	実数 %	7 2.0%	30 8.7%	9 2.6%	0 0.0%	1 0.3%	0 0.0%	47 13.6%
2 ある程度頻繁にある (週に1回～月に数回程度)	実数 %	11 3.2%	68 19.7%	14 4.1%	0 0.0%	4 1.2%	1 0.3%	98 28.4%
3 とときある (月に1回～年に数回程度)	実数 %	8 2.3%	59 17.1%	27 7.8%	1 0.3%	7 2.0%	0 0.0%	102 29.6%
4 めったにない (年に1回～数年に1回程度)	実数 %	6 1.7%	27 7.8%	18 5.2%	0 0.0%	8 2.3%	0 0.0%	59 17.1%
5 まったくない (もしくは友人・知人がいない)	実数 %	1 0.3%	18 5.2%	11 3.2%	1 0.3%	4 1.2%	0 0.0%	35 10.1%
無回答	実数 %	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 1.2%	4 1.2%
全体の 実数		33	202	79	2	24	5	345
全体の %		9.6%	58.6%	22.9%	0.6%	7.0%	1.4%	100.0%

表 3 6

		問25 あなたは、一般的に人に対する信頼についてどう考えますか。あなたの考え方に近いと思うものを1つ選んでください。						
問16 あなたは、ハイツでの日常生活において、住民間の支え合いや助け合いがあると思いますか。		1 ほとんどの人は信頼できる	2 ある程度は信頼できる	3 注意することに越したことはない	4 信頼できない	5 わからない	無回答	総計
1 おおむねにある	実数 %	4 1.2%	20 5.8%	6 1.7%	0 0.0%	2 0.6%	0 0.0%	32 9.3%
2 まあまあある	実数 %	24 7.0%	107 31.0%	31 9.0%	0 0.0%	6 1.7%	1 0.3%	169 49.0%
3 どちらともいえない	実数 %	2 0.6%	50 14.5%	26 7.5%	1 0.3%	11 3.2%	0 0.0%	90 26.1%
4 あまりない	実数 %	3 0.9%	19 5.5%	12 3.5%	0 0.0%	3 0.9%	0 0.0%	37 10.7%
5 まったくない	実数 %	0 0.0%	6 1.7%	3 0.9%	1 0.3%	2 0.6%	0 0.0%	12 3.5%
無回答	実数 %	0 0.0%	0 0.0%	1 0.3%	0 0.0%	0 0.0%	4 1.2%	5 1.4%
全体の 実数		33	202	79	2	24	5	345
全体の %		9.6%	58.6%	22.9%	0.6%	7.0%	1.4%	100.0%

友人・知人との付き合いの頻度との関係 (表 35) でみると、「ほとんどの人は信頼できる」(3.2%)と「ある程度は信らできる」(19.7%)のいずれも「やや頻繁」が最も高く、「やや頻繁」の割合は、それぞれの項目全体の3割強(11人/33人、63人/202人)を占める。「注意することに越したことはない」では「ときどき」が最も高く、7.8%であり、項目全体の3割弱(27人/79人)である。信頼の程度は、週に1回～月に数回程度の付き合いである「やや頻繁」が影響していると考えられる。

支え合い・助け合いとの関係 (表 36) でみると、「ほとんどの人は信頼できる」(7%)、「ある程度は信らできる」(31%)、「注意することに越したことはない」(9%)のいずれにおいても「まあまあある」の占める比率が高い。全幅派から消極派に向かって「まあまあある」という評価は、下がっている。信頼は全幅派から消極派まで共通して「まあまああ

表37

		問25 あなたは、一般的に人に対する信頼についてどう考えますか。あなたの考え方に近いと思うものを1つ選んでください。							
問21-1 あなたは、自治会の役員の経験がありますか。		1 ほとんどの人は信頼できる	2 ある程度は信頼できる	3 注意することに越したことはない	4 信頼できない	5 わからない	無回答	総計	
1 ある	実数 %	23 6.7%	119 34.5%	38 11.0%	1 0.3%	10 2.9%	1 0.3%	192 55.7%	
2 ない	実数 %	10 2.9%	76 22.0%	40 11.6%	1 0.3%	11 3.2%	0 0.0%	138 40.0%	
無回答	実数 %	0 0.0%	7 2.0%	1 0.3%	0 0.0%	3 0.9%	4 1.2%	15 4.3%	
全体の 実数		33	202	79	2	24	5	345	
全体の %		9.6%	58.6%	22.9%	0.6%	7.0%	1.4%	100%	

表38

		問25 あなたは、一般的に人に対する信頼についてどう考えますか。あなたの考え方に近いと思うものを1つ選んでください。							
問20-1 ハイツ内の組織・団体に参加していますか。		1 ほとんどの人は信頼できる	2 ある程度は信頼できる	3 注意することに越したことはない	4 信頼できない	5 わからない	無回答	総計	
参加	実数 %	17 4.9%	69 20.0%	15 4.3%	0 0.0%	7 2.0%	0 0.0%	108 31.3%	
不参加・無回答	実数 %	16 4.6%	133 38.6%	64 18.6%	2 0.6%	17 4.9%	5 1.4%	237 68.7%	
全体の 実数		33	202	79	2	24	5	345	
全体の %		9.6%	58.6%	22.9%	0.6%	7.0%	1.4%	100.0%	

注) 問20-1は参加の有無で再集計し、それに合わせて質問文も変更している。

る」と評価しているが、その評価の占める割合では全幅派が高く、消極派は低い。信頼度が高い人ほど「まあまあある」と評価ないし認識する傾向が窺える。

次に、社会参加として、自治会役員の経験の有無と各種の自主組織・団体への参加の有無と一般的信頼との関係を見る。まず、自治会の役員経験者との関係（表37）でみると、「ほとんどの人は信頼できる」では自治会役員の経験が「ある」が6.7%、「ある程度は信頼できる」が34.5%と最も高い。各項目の「ある」の割合は、「ほとんどの人は信頼できる」が69.7%（23人/33人）、「ある程度は信頼できる」が58.9%（119人/202人）となっている。信頼のある人の方が、ない人より役員の経験が多い傾向にあり、中でも全幅派の方が役員になる傾向が強い。

ハイツ内の自主的組織・団体への参加との関係（表38）でみると、各項目での「参加」の割合は、「ほとんどの人は信頼できる」中で51.5%（17人/33人）、「ある程度は信頼できる」中で34.2%（69人/202人）を占めている。信頼を持ち参加している人のうち、信頼度が高い人の方が自主組織・団体に「参加」する傾向が強い。

これらの点からすると、比較的信頼度が高い人は、近所づきあいの程度、付き合っている人の人数、友人・知人との付き合いの頻度、支え合い・助け合いの程度、社会参加のうち自治会役員経験や市民活動への参加において高い割合を示す傾向にある。したがって、近所づきあいや助け合い、社会参加と信頼関係の三つとは、関係性があることが窺える。

表39

問13 あなたのハイツ内での近所づきあいは、どの程度ですか。		問21-1 あなたは、自治会の役員の経験がありますか。			
	実数 %	1 ある	2 ない	無回答	総計
1 相談したり、日用品を貸し借りするなど、生活面で協力し合っている人がいる。		56 16.2%	18 5.2%	0.0%	74 21.4%
2 日常的に立ち話しをする程度の付き合いはしている。		98 28.4%	55 15.9%	5 1.4%	158 45.8%
3 あいさつ程度の最小限の付き合いしかしていない。		38 11.0%	57 16.5%	7 2.0%	102 29.6%
4 付き合いはまったくしていない。			8 2.3%	0.0%	8 2.3%
無回答				3 0.9%	3 0.9%
全体の 実数		192	138	15	345
全体の %		55.7%	40.0%	4.3%	100.0%

表40

問14 あなたの付き合いしているハイツ内の人数の程度は、どれくらいですか。		問21-1 あなたは、自治会の役員の経験がありますか。			
	実数 %	1 ある	2 ない	無回答	総計
1 かなり多くの人と面識・交流がある (概ね20人以上)		43 12.5%	10 2.9%	1 0.3%	54 15.7%
2 ある程度の人と面識・交流がある (概ね5人~19人)		104 30.1%	52 15.1%	3 0.9%	159 46.1%
3 近所のごく少数の人だけ面識・交流がある (概ね4人以下)		42 12.2%	67 19.4%	5 1.4%	114 33.0%
4 隣の人が誰かわからない		2 0.6%	8 2.3%	2 0.6%	12 3.5%
無回答		1 0.3%	1 0.3%	4 1.2%	6 1.7%
全体の 実数		192	138	15	345
全体の %		55.7%	40.0%	4.3%	100.0%

(2) 近所づきあい、助け合いと社会参加との関係

近所づきあい、助け合いと社会参加との関係を、自治会役員の経験の有無とハイツ内の各種の自主組織・団体への参加の有無の二つで確認する。

まず、自治会役員の経験の有無と近所づきあい、助け合いとの関係を確認する。近所づきあいの程度と自治会役員の経験の有無の関係(表39)で見ると、自治会役員の経験のある人は、「立ち話し程度」の付き合いが28.4%と最も高く、次いで「生活面での協力」が16.2%、「あいさつ程度」が11%である。役員経験のある人の合計(192人)に対する割合で見ると、「立ち話し程度」が51%、「生活面での協力」が29.1%、「あいさつ程度」が19.8%と、普段の立ち話し程度から生活面での協力関係のある付き合いが大半を占めている。役員経験のある人とならない人では、ある人の方が近所づきあいは活発である。

付き合いしている人数(表40)で見ると、役員経験のある人は、「中位の面識」を持っているが30.1%と最も高く、次いで「多くの面識」が12.5%、「少数の面識」が12.2%である。役員経験のある人の合計(192人)に対する割合で見ると、「中位の面識」が54.2%、「多くの面識」が22.4%、「少数の面識」が21.9%と、大半が最低でも5人以上、多い人は20人以上の人との付き合いをしている。役員経験のある人とならない人では、ある人の方が付き合いしている人の数は多い。

表4 1

		問21-1 あなたは、自治会の役員の経験がありますか。			
問15 あなたは、普段どの程度の頻度でハイツ内の友人・知人と付き合っていますか。		1 ある	2 ない	無回答	総計
1 日常的にある (毎日一週に数回程度)	実数 %	31 9.0%	15 4.3%	1 0.3%	47 13.6%
2 ある程度頻繁にある (週に1回一月に数回程度)	実数 %	69 20.0%	27 7.8%	2 0.6%	98 28.4%
3 ときどきある (月に1回一年に数回程度)	実数 %	58 16.8%	40 11.6%	4 1.2%	102 29.6%
4 めったにない (年に1回一数年に1回程度)	実数 %	25 7.2%	32 9.3%	2 0.6%	59 17.1%
5 まったくない (もしくは友人・知人がいない)	実数 %	9 2.6%	24 7.0%	2 0.6%	35 10.1%
無回答	実数 %			4 1.2%	4 1.2%
全体の 実数		192	138	15	345
全体の %		55.7%	40.0%	4.3%	100.0%

表4 2

		問21-1 あなたは、自治会の役員の経験がありますか。			
問16 あなたは、ハイツでの日常生活において、住民間の支え合いや助け合いがあると思いますか。		1 ある	2 ない	無回答	総計
1 おおいにある	実数 %	19 5.5%	13 3.8%	0 0.0%	32 9.3%
2 まあまあある	実数 %	105 30.4%	60 17.4%	4 1.2%	169 49.0%
3 どちらともいえない	実数 %	51 14.8%	35 10.1%	4 1.2%	90 26.1%
4 あまりない	実数 %	15 4.3%	20 5.8%	2 0.6%	37 10.7%
5 まったくない	実数 %	2 0.6%	9 2.6%	1 0.3%	12 3.5%
無回答	実数 %	0 0.0%	1 0.3%	4 1.2%	5 1.4%
全体の 実数		192	138	15	345
全体の %		55.7%	40.0%	4.3%	100.0%

友人・知人との付き合いの頻度 (表 41) でみると、役員経験のある人は、「やや頻繁」に付き合っているが 20%と最も高く、次いで「ときどき」が 16.8%である。役員経験のある人の合計 (192 人) に対する割合でみると、「やや頻繁」が 36%、「ときどき」が 30.2%と、多くが最低でも月に 1 回から月に数回の頻度で付き合っている。役員経験のある人とない人では、大雑把にみて両者に大きな差はないものの、経験のない人は「やや頻繁」の割合が低い。

支え合い・助け合いの程度 (表 42) でみると、役員経験のある人は、「まあまあある」が 30.4%と最も高く、次いで「どちらともいえない」が 14.8%である。役員経験のある人の合計 (192 人) に対する割合でみると、「まあまあある」が 54.7%、「おおいにある」が 9.9%と、6割強が助け合いはあると認識している。役員経験のある人とない人では、ある人の方が助け合いがあると認識する傾向が強い。

これらの点からすると、自治会役員の経験のある人は、経験のない人よりも近所づきあいが活発で、付き合っている人も多く、その人との付き合いの頻度も高く、助け合いがあると肯定的に捉えていることがわかる。このように、近所づきあいや助け合いと自治会役員の経験の有無とは、関係性があることが窺える。

表43

問13 あなたのハイツ内での近所づきあいは、どの程度ですか。		問20-1 ハイツ内の組織・団体に参加していますか。		
		参加	不参加・無回答	総計
1 相談したり、日用品を貸し借りするなど、生活面で協力し合っている人がいる。	実数 %	34 9.9%	40 11.6%	74 21.4%
2 日常的に立話しをする程度の付き合いはしている。	実数 %	60 17.4%	98 28.4%	158 45.8%
3 あいさつ程度の最小限の付き合いしかしていない。	実数 %	13 3.8%	89 25.8%	102 29.6%
4 付き合いはまったくしていない。	実数 %	1 0.3%	7 2.0%	8 2.3%
無回答	実数 %	0 0.0%	3 0.9%	3 0.9%
全体の 実数		108	237	345
全体の %		31.3%	68.7%	100.0%

表44

問14 あなたの付き合いしているハイツ内の人数の程度は、どれくらいですか。		問20-1 ハイツ内の組織・団体に参加していますか。		
		参加	不参加・無回答	総計
1 かなり多くの人と面識・交流がある（概ね20人以上）	実数 %	35 10.1%	19 5.5%	54 15.7%
2 ある程度の人と面識・交流がある（概ね5人～19人）	実数 %	64 18.6%	95 27.5%	159 46.1%
3 近所のごく少数の人だけ面識・交流がある（概ね4人以下）	実数 %	9 2.6%	105 30.4%	114 33.0%
4 隣の人が誰かわからない	実数 %	0 0.0%	12 3.5%	12 3.5%
無回答	実数 %	0 0.0%	6 1.7%	6 1.7%
全体の 実数		108	237	345
全体の %		31.3%	68.7%	100.0%

次に、ハイツ内の自主組織・団体への参加と近所づきあい、助け合いとの関係を以下で確認する。

まず、ハイツ内での近所づきあいの程度と自主組織・団体への参加の関係（表43）で見ると、参加している人の中で、「立ち話し程度」の付き合いが最も高く、「生活面での協力」が次いでいる。参加している人の合計（108人）に対する割合で見ると、「立ち話し程度」が55.6%、「生活面での協力」が31.5%と、普段の立ち話し程度から生活面での協力関係のある付き合いが大半を占めている。参加している人としていない人では、参加している人の方が近所づきあいは活発ないし深い。

付き合いしている人数と参加の関係（表44）で見ると、参加している人の中で、「中位の面識」があるが最も高く、「多くの面識」が次いでいる。参加している人の合計（108人）に対する割合で見ると、「中位の面識」が59.2%、「多くの面識」が32.4%と、ほとんどが5人～19人か、あるいは20人以上の人と付き合いしている。逆に、不参加の人は、4人以下か、あるいは5人～19人以内の人との付き合いである。

友人・知人との付き合いの頻度と参加の関係（表45）で見ると、参加している人の中で、「やや頻繁」に付き合いしているが最も高く、「頻繁」が次いでいる。参加している人の合計（108人）に対する割合で見ると、「やや頻繁」が43.5%、「頻繁」が25%と、友人・知人との付き合いは活発である。参加している人としていない人では、参加している人の方がやや頻繁に付き合いしている。

支え合い・助け合いの程度と参加の関係（表46）で見ると、参加している人の中で、助

表45

問15 あなたは、普段どの程度の頻度でハイツ内の友人・知人と付き合っていますか。		問20-1 ハイツ内の組織・団体に参加していますか。		
		参加	不参加・無回答	総計
1 日常的にある（毎日一週に数回程度）	実数 %	27 7.8%	20 5.8%	47 13.6%
2 ある程度頻繁にある（週に1回一月に数回程度）	実数 %	47 13.6%	51 14.8%	98 28.4%
3 ときどきある（月に1回一年に数回程度）	実数 %	25 7.2%	77 22.3%	102 29.6%
4 めったにない（年に1回数年に1回程度）	実数 %	7 2.0%	52 15.1%	59 17.1%
5 まったくない（もしくは友人・知人がいない）	実数 %	2 0.6%	33 9.6%	35 10.1%
無回答	実数 %	0 0.0%	4 1.2%	4 1.2%
全体の 実数		108	237	345
全体の %		31.3%	68.7%	100.0%

表46

問16 あなたは、ハイツでの日常生活において、住民間の支え合いや助け合いがあると思いますか。		問20-1 ハイツ内の組織・団体に参加していますか。		
		参加	不参加・無回答	総計
1 おおいにある	実数 %	16 4.6%	16 4.6%	32 9.3%
2 まあまあある	実数 %	61 17.7%	108 31.3%	169 49.0%
3 どちらともいえない	実数 %	22 6.4%	68 19.7%	90 26.1%
4 あまりない	実数 %	8 2.3%	29 8.4%	37 10.7%
5 まったくない	実数 %	1 0.3%	11 3.2%	12 3.5%
無回答	実数 %	0 0.0%	5 1.4%	5 1.4%
全体の 実数		108	237	345
全体の %		31.3%	68.7%	100.0%

けい合いが「まあまあある」が最も高く、次いで「どちらともいえない」、「おおいにある」の順である。参加している人の合計（108人）に対する割合で見ると、「まあまあある」が56.5%、「おおいにある」が14.8%で、多くが助け合いがあると認識している。参加している人としていない人では、参加している人の方が助け合いがあると認識する傾向が強い。

これらの点からすると、参加している人は、参加していない人よりも近所づきあいが活発で、付き合っている人も多く、その人との付き合いの頻度も高く、助け合いがあると肯定的に捉えていることがわかる。このように、近所づきあいや助け合いと社会参加とは、関係性があることが窺える。

8. ハイツの特徴を規定する居住者の姿

(1) ハイツの特徴

これまでの考察から、年齢、居住年数が他の設問項目に強く影響していることや、近所づきあい、社会参加、自治会役員の経験、信頼にそれぞれ高い割合を示していること、それらの設問項目間の関係性もあることが確認された。これらの点を踏まえて、共同性の発

現や信頼の向上、そしてそれらによる組織化あるいは互酬性の向上につながる、ハイツ居住者の特徴的な三つの姿を指摘する。すなわち、社会参加型、自治会役員経験型、転向型である。これらは、ハイツ居住者全体を類型化する上で基準となるものであって、類型ではないことに留意していただきたい⁽¹¹⁾。以下では、これらを順にみていくこととする。

(2) 社会参加型の特徴

ハイツ内にある各種の自主組織・団体は、管理組合と自治会を除いても数多い。これらの組織・団体は、ハイツ内に限定した活動とするものもあれば、NPOをはじめハイツ外との交流や活動を行うものもある。これらの市民活動に参加している、いわゆる社会参加型の方は、全体の31%（108人）である。この3割の方は、60歳以上がほぼ9割で、居住年数では30年以上が4割強と全体の5割弱に比べてやや少なく、自治会役員の経験でも同様に少ない。

これに対して、近所づきあいの程度、付き合っている人の人数、友人・知人との付き合いの頻度、一般的信頼、個別的信頼については、全体に比べて非常に高い。

社会参加型は、生活面での協力し合う密度の濃い付き合いおしており、かなり多くの人との面識・交流を持ち、友人・知人の付き合いも日常的にあり、住民間の支え合いや助け合いがおおいにあると認識し、二つの信頼も非常に高いことが特徴である⁽¹²⁾。

表47

問	項目	内容	社会参加型 (%)	全体 (%)
問1 あなたの年齢層は、どれですか。	年齢	60歳以上	88	69.8
問3 あなたは、ハイツに住んでどれくらいになりますか。	居住年数	30年以上	44	46.4
問10 あなたはハイツに入居する際、どう思っていましたか。	転向型	途中から一生住もうと思った	45	38.8
問21-1 あなたは、自治会の役員の経験がありますか。	経験の有無	あり	41	55.7
問13 あなたのハイツ内での近所づきあいは、どの程度ですか。	近所づきあいの程度	生活面での協力	46	21.4
問14 あなたの付き合っているハイツ内の人数の程度は、どれくらいですか。	付き合っている人数	かなり多い（概ね20人以上）	65	15.7
問15 あなたは、普段どの程度の頻度でハイツ内の友人・知人と付き合っていますか。	友人・知人との付き合いの頻度	日常的（毎日一週に数回程度）	57	13.6
問16 あなたは、ハイツでの日常生活において、住民間の支え合いや助け合いがあると思いますか。	助け合いの程度	おおいにある	50	9.3
問25 あなたは、一般的に人に対する信頼について、どう思いますか。	一般的信頼の程度	ほとんどの人は信頼できる	52	9.6
問26 あなたは、ハイツ内の人に対する信頼について、どう思いますか。	個別的信頼	ほとんどの人は信頼できる	59	14.8

(3) 自治会役員経験型の特徴

自治会役員経験型の方は全体の約6割を占める。この型の方は変更型と同じく、全ての項目において全体の割合よりも高い。しかし、両者の異なる点は、自治会役員経験型の方が全体との差が大きいことである。また、社会参加型は、30年以上の居住歴及び自治会役

表 4 8

問	項目	内容	自治会役員経験型 (%)	全体 (%)
問1 あなたの年齢層は、どれですか。	年齢	60歳以上	74	69.9
問3 あなたは、ハイツに住んでどれくらいになりますか。	居住年数	30年以上	52	46.4
問10 あなたはハイツに入居する際、どう思っていましたか。	転向型	途中から一生住もうと思った	62	38.8
問13 あなたのハイツ内での近所づきあいは、どの程度ですか。	近所づきあいの程度	生活面での協力	76	21.4
問14 あなたの付き合っているハイツ内の人数の程度は、どれくらいですか。	付き合っている人数	かなり多い(概ね20人以上)	80	15.7
問15 あなたは、普段どの程度の頻度でハイツ内の友人・知人と付き合っていますか。	友人・知人との付き合いの頻度	日常的(毎日一週に数回程度)	66	13.6
問16 あなたは、ハイツでの日常生活において、住民間の支え合いや助け合いがあると思いますか。	助け合いの程度	おおいにある	59	9.3
問20-1 あなたは、ハイツ内の組織・団体に参加していますか。	市民活動への参加の有無	あり	41	31
問25 あなたは、一般的に人に対する信頼について、どう思いますか。	一般的信頼の程度	ほとんどの人は信頼できる	70	9.6
問26 あなたは、ハイツ内の人に対する信頼について、どう思いますか。	個別的信頼	ほとんどの人は信頼できる	67	14.8

員経験の割合がそれぞれ全体より低いものに対して、自治会役員経験型は全ての項目において全体より高い割合を示すものの、年齢、居住年数、社会参加には、自治会役員経験の有無との間においてそれほど強い関係はみられない。

これらの点からすると、自治会役員経験型は、近所づきあいが活発で、助け合いも多く、信頼も高いことが特徴である⁽¹³⁾。自治会はその役割が低下しつつあると言われているが、近所づきあいや助け合い、信頼性の向上にとって非常に有効な装置と言えるだろう。

(4) 変更型の特徴

単純集計の結果からみると、入居時の居住に対する認識では、「はじめからずっと住もうと思っていた。」(以下、「確信型」と呼ぶ。)約 26%、「はじめからずっと住もうと思っていなかったが、途中から一生住もうと思うようになった。」(以下、「変更型」と呼ぶ。)39%、「いまでも一生住もうと思っていない(わからない)。」(以下、「未確定型」と呼ぶ。)33%と、ほぼ均等に三つに分かれている。

変更型は全体の約4割を占める。この4割の人は、年齢的には60歳以上が大半を占め、居住年数も30年以上が6割で、自治会役員の経験も豊富な人たちである。

また、近所づきあいでは、確信型や未確定型よりも生活面での協力し合う密度の濃い付き合いをしているが、付き合っている人の人数と友人・知人との付き合いの頻度は確信型よりも少ないあるいは低い。助け合い、社会参加、一般的信頼、個別的信頼については、全体の割合より高いものの、それほど高いわけではない。

変更型は、確信型や未確定型と比べ、自治会役員の経験、生活面での協力、社会参加、一般的信頼の四つの項目の割合が最も高いことが特徴である。つまり、これらの要素が変更型となった決め手と考えられる。住み続けて行く中で自治会役員の経験やハイツ内の自

表49

問	項目	内容	確信型 (%)	変更型 (%)	未確定型 (%)	全体 (%)
問1 あなたの年齢層は、どれですか。	年齢	60歳以上	85	78	51	69.8
問3 あなたは、ハイツに住んでどれくらいになりますか。	居住年数	30年以上	61	60	21	46.4
問21-1 あなたは、自治会の役員の経験がありますか。	経験の有無	あり	58	62	48	55.7
問13 あなたのハイツ内での近所づきあいは、どの程度ですか。	近所づきあいの程度	生活面での協力	21	28	15	21.4
問14 あなたの付き合っているハイツ内の人数の程度は、どれくらいですか。	付き合っている人数	かなり多い(概ね20人以上)	21	18	10	15.7
問15 あなたは、普段どの程度の頻度でハイツ内の友人・知人と付き合っていますか。	友人・知人との付き合いの頻度	日常的(毎日一週に数回程度)	20	17	5	13.6
問16 あなたは、ハイツでの日常生活において、住民間の支え合いや助け合いがあると思いますか。	助け合いの程度	おおいにある	15	10	5	9.3
問20-1 あなたは、ハイツ内の組織・団体に参加していますか。	市民活動への参加の有無	あり	34	37	25	31
問25 あなたは、一般的に人に対する信頼について、どう思いますか。	一般的信頼の程度	ほとんどの人は信頼できる	11	12	6	9.6
問26 あなたは、ハイツ内の人に対する信頼について、どう思いますか。	個別的信頼	ほとんどの人は信頼できる	20	19	6	14.8

主組織・団体の活動への参加を通じて、あるいは近所づきあいを深めることを通じて、信頼性が高まることで、終の棲家と自覚するに至ったものと言えるだろう。

9. 結果と政策展開の可能性

(1) アンケート結果

アンケート調査の結果からは、ハイツの居住者の特徴として以下の5点が指摘できるだろう。

第1に、属性では、居住者のうち60歳以上が7割、30年以上の居住年数者が約5割を占め、そうした人は夫婦世帯が多い。また、年収が200万円以上から400万円未満に集中し、パート勤めが多い。第2に、近所づきあいの程度、付き合っている人数、一般的信頼は全国的にみても非常に高い。第3に、年齢層が高いほど、居住年数が長いほど近所づきあい、助け合い、社会参加が活発で、自治会役員の経験も豊富で、しかも人びとに対する信頼感が高い。第4に、第3の点を基に特徴的な居住者の姿として、自治会役員経験型(自治会役員の経験を通して近所づきあいが活発で助け合いも多く、信頼も高い)と、社会参加型(生活面での協力、人との面識・交流、友人・知人との付き合い、助け合いが多く、信頼も高い)を挙げることができる。第5に、全体の4割を占める、途中から一生住もうと思うようになった変更型は、自治会役員の経験、生活面での協力、社会参加が多く、信頼も高い。

次に、仮説との関係をみていく。まず第2の仮説は、「年齢や居住年数が増えると同時に、

ハイツ内の自治会等自主的組織・団体への社会参加の経験を通じて近所づきあいや友人・知人との交流が増え、それが信頼を高め、支え合いや助け合いという互酬性を高めるのではないか。」である。年齢や居住年数が増えると同時に、ハイツ内の自治会等自主的組織・団体への社会参加が増える、また、近所づきあいや友人・知人との交流とハイツ内の自治会等自主的組織・団体への社会参加が増えることは確かである。しかも、それらが信頼を向上させることも確かである。しかし、信頼の向上のルートは、仮説の通りかどうかは、判別しない。信頼がもともと高い場合も想定されうる。また、信頼が高ければ、自主的組織への社会参加が伸展することもアンケートからは窺える。信頼が高ければ、互酬性が高まるという点では、該当するものの、その反対の場合も想定されるため、これもアンケートからは明確に特定できない。仮説を構成する要因の明確な因果関係はむろん説明できないが、関係性ないし相関性の存在は指摘できるだろう。

もう一つの仮説が「第3に、近所づきあいや助け合い、社会参加の程度は、はじめから確信的に一生住もうと考えていた人よりも、むしろ途中から一生住もうと意識が変更した人の方が高いのではないか。」である。この点については、概ね仮説通りと言えるだろう。少し詳しくみると、近所づきあいの程度は高いものの、付き合っている人数や友人・知人との付き合いの頻度は、はじめから一生住もう思っていた確信型よりも少ないあるいは低い。社会参加と助け合いについても、全体の割合を少し上回る程度である。一生住もうと認識を転換した背景には、自治会役員の経験とそこから生まれた付き合いの広がりや深さが影響しているのではないかと推察される。

以上のことから、ハイツにおける問題解決の3層構造の生成は、近所づきあい、助け合い、社会参加、信頼の高さが深く関係していると結論づけることができるだろう。

そこで、最後に、SCと政策について触れたい。

(2) 政策展開の可能性

近所づきあいや各種の自主組織・団体への認識だけでなく参加、信頼度、すなわちSCが高いことなどを背景として、ハイツのコミュニティ活動が活発であることは、人と人とのつながりの再生や強化が重要であることを意味する。人と人とのつながりは、まさしく公共的な財・サービスと不可分な地域資源であると考えられる。このようにSCを、公共財と捉えることが重要である(稲葉、2007、p.205、山内・伊吹、2005)。そのうえで、政策の方向性としては、SCを醸成・向上していくことや維持することが求められる。

その際の基本姿勢には、第1に、SCは本来、個人や集団が自発的、主体的に高めて行くべきものであることから、自治体はその点を踏まえ重要性を認識し一定の距離を置き、その上で、公共的な財・サービスと不可分なものとして醸成・向上、そして維持の責任を持つことが必要である。

第2に、SCの醸成・向上、維持を考慮して既存の政策の見直しを図ることである。その際、SC向上政策は政策分野を横断する点に留意する必要があるだろう。

第3に、SCの醸成・向上、維持には、ハイツの例からもわかる通り、長い年月を要することから、長期的視点に立ちそれなりの責任と権限をコミュニティに付与することが必要である。

第4に、高齢化を前向きに捉え直すと同時に、60歳未満の有業者の参加を促すことや利他的な行動に対する支援を講ずべきである。

第5に、自治会・町内会は、信頼形成、近所づきあい、助け合いなどを促す重要な装置として位置づけ直すことである。世帯単位の自治会と個人参加の自主的組織、意思決定を自治会、執行を自主的組織というような関係に捉え直し、自治会がすべてを抱え込まないような仕組みづくりを促す政策も考えられる。

第6に、ハイツのようにコミュニティを中心としたソーシャル・ビジネスも考えられる。この場合、あくまでも「とんとん経営」や生きがいづくりを基本とした支援とする必要があろう。

〈注〉

- (1) 詳しい概要は、ハイツ内にある特定非営利活動法人グリーンオフィスさやま（愛称：NPO じおす）のホームページを参照されたい。アドレスは次の通り。
<http://www.gor-sayama.net/>
- (2) 平成22年6月30日のNPO じおすの毛塚宏へのヒアリングに基づく。その際、コメントだけでなく、ハイツの理事会資料等多くの資料を提供いただいた。本稿執筆においてもそれらを活用させていただいている。この場を借りてお礼申し上げたい。
- (3) 学術的な研究動向や到達レベルを知る上で、稲葉陽二・大守隆・近藤克則・宮田加久子・矢野聡・吉野諒三編（2011）『ソーシャル・キャピタルのフロンティア』ミネルヴァ書房、この他、概括的に理解する上では、宮川公男・大守隆編（2004）『ソーシャル・キャピタル—現代経済社会のガバナンスの基礎—』東洋経済新報社、稲葉陽二（2007）『ソーシャルキャピタル—「信頼の絆」で解く現代経済・社会の諸課題—』生産性出版、稲葉陽二（2011）『ソーシャル・キャピタル入門—孤立から絆へ—』（中公新書）中央公論新社などが挙げられる。
- (4) SCの定義に盛り込まれている信頼、互酬性の規範、ネットワークのそれぞれの関係は、必ずしも明確にされてはいない。一般的に考えれば、互酬性の規範やネットワークによって信頼がもたらされることやその逆もあり得る。しかし、本稿では、現在の状態を一つのモデルとして分析対象としていることから、すでに信頼が存在していると仮定する。
- (5) コミュニティにおける共同性は、端的に言えば「われわれ意識や仲間意識」である。ハイツをはじめ集合住宅は、入居からある一定期間は、近所づきあいもそれほどなく、いわば集合性が特徴と言える。しかし、それが時間の経過と共に面識・交流が増え、共通の問題や課題を議論したり、解決活動へとつながる。これがわれわれ意識の現れ

であり、共同性の発現である。したがって、本稿では、共同性を前提としたコミュニティの公共性を市民的公共性と位置づけている。

- (6) 信頼性の向上には、問題や課題が必要とされている。また、共同性の発現も問題や課題が前提となる。信頼性の向上については、例えば、山岸俊男（1998）『信頼の構造—こころと社会の進化ゲーム—』東京大学出版会を参照されたい。
- (7) 『団地および近隣地域と交流に関するアンケート調査』は、独立行政法人都市再生機構の委託を受けてニッセイ基礎研究所が2008年11月6日から20日にかけて実施した標本調査である。対象は、昭和40年代に管理が開始された首都圏立地の賃貸住宅のうち、立地環境、建築構造が異なる二つの団地をモデル団地として設定し、それぞれの団地から無作為に抽出した1,500戸（各団地750戸ずつ抽出）である。調査方法は、ポスティングによる配布、郵送による回収。回収結果は、440戸（有効回答数）で、回収率30.9%（有効配布数1,426戸を母数にして算出）である。
- (8) UR調査においても同様な傾向を示している。
- (9) 稲葉（2011、p.157）においても、「年間所得200万円以上400万円未満の層は、地縁的活動・NPOなどの活動から見た社会参加と、友人・知人との職場以外でのつきあい、スポーツ・趣味・娯楽活動への参加率で見た社会的交流が高く、この所得層が地域における社会関係資本の醸成と大きく関わっていることが推察される。」としている。この傾向は、本稿で後述する主張とほぼ一致している。
- (10) こうしたジェンダー差は一般的には他にも見受けられる。例えば、聖徳大学生涯学習研究所（2005）『生涯学習まちづくり—生涯学習まちづくりと活性化方策に関する実践的展開』によれば、コミュニティ組織において、補助的な活動は男性よりも女性に多いことや運営方針などを決める中核的メンバーよりも作業を担当する主要メンバーを女性の方が好むといったことが挙げられている。また、UR調査の結果では、女性の方が親密な付き合いだけでなく、活発な近所づきあいがあることを示している。しかし、ハイツにおいては、そのような傾向はあまり顕著ではないとのことだった（前出、手塚氏からの聞き取りによる）。
- (11) 社会参加者、自治会役員経験者、変更者による類型化については、別稿を予定している。典型的には、①社会参加者、自治会役員経験者、変更者の全ての該当者、②社会参加者と自治会役員経験者に該当する者、③社会参加者と変更者に該当する者、④自治会役員経験者と変更者に該当する者の四つを想定している。
- (12) 社会参加型は、かなりの人との面識・交流を持ち友人・知人との付き合いの頻度も高いことからすると、ハイツとハイツの外との交流を促す、つまり異質な人を結びつける、橋渡し機能を果たす可能性を秘めている。いわゆるブリッジン（bridging）と呼ばれるものである。
- (13) 自治会役員経験型は、近所づきあいが非常に活発で助け合いが高いことから、ハイツの中の結びつきを高める、つまり同質な人同士を結びつける、紐帯機能を果たす可

能性を秘めている。いわゆるボンディング (bonding) と呼ばれるものである。

〈謝辞〉

本稿は、本学及び埼玉県の共同研究の一環として調査した結果の一部をまとめたものである。両機関に感謝申し上げる。

〈参考文献〉

- 稲葉陽二・大守隆・近藤克則・宮田加久子・矢野聡・吉野諒三編 (2011) 『ソーシャル・キャピタルのフロンティア』 ミネルヴァ書房
- (2007) 『ソーシャルキャピタル—「信頼の絆」で解く現代経済・社会の諸課題』 生産性出版
- (2011) 『ソーシャル・キャピタル入門—孤立から絆へ』 (中公新書) 中央公論新社
- 聖徳大学生涯学習研究所 (2005) 『生涯学習まちづくり—生涯学習まちづくりと活性化方策に関する実践的展開』 聖徳大学
- 独立行政法人都市再生機構 (2009) 『団地および近隣地域と交流に関するアンケート調査』
- 内閣府国民生活局 (2003) 『ソーシャル・キャピタル—豊かな人間関係の構築と市民活動の好循環を求めて—』
- 内閣府経済社会総合研究所 (2005) 『コミュニティ機能再生とソーシャル・キャピタルに関する研究調査報告書』
- 日本総合研究所 (2008) 『日本のソーシャル・キャピタルと政策—日本総研2007年全国アンケート調査結果報告書—』 株式会社日本総合研究所
- 宮川公男・大守隆編 (2004) 『ソーシャル・キャピタル—現代経済社会のガバナンスの基礎』 東洋経済新報社
- 山岸俊男 (1998) 『信頼の構造—こころと社会の進化ゲーム—』 東京大学出版会
- 山内直人・伊吹英子編 (2005) 『日本のソーシャル・キャピタル』 大阪大学大学院国際公共政策研究科、NPO研究情報センター
- ロバート・パットナム (1993) 『哲学する民主主義』 NTT出版
- (2000) 『孤独なボウリング』 柏書房

(経済学部准教授・社会調査研究センター)

「新狭山ハイツのコミュニティ及び社会的企業の形成に関するアンケート調査」単純集計結果

概要

- 1 対象 770世帯のうち、空き家69戸を除く709世帯
- 2 期間 平成23年9月7日～平成23年9月30日（アンケート配布期間）
- 3 配布 現地にて、各戸の郵便受けに投函
- 4 回収 各棟理事会ポストを利用
- 5 回収率 48.7%（345件）

①基本属性

問1 あなたの年齢層は、どれですか。（1つ選択）

選択肢	実数	%
1. 20歳以上～30歳未満	6	1.7%
2. 30歳以上～40歳未満	14	4.1%
3. 40歳以上～50歳未満	21	6.1%
4. 50歳以上～60歳未満	54	15.7%
5. 60歳以上～70歳未満	107	31.0%
6. 70歳以上～80歳未満	104	30.1%
7. 80歳以上	30	8.7%
無回答	9	2.6%
合計	345	100%

問2 あなたの性別は、どれですか。（1つ選択）

選択肢	実数	%
1. 男	184	53.3%
2. 女	151	43.8%
無回答	10	2.9%
合計	345	100%

問3 あなたは、ハイツに住んでどれくらいになりますか。（1つ選択）

選択肢	実数	%
1. 1年以上～5年未満	28	8.1%
2. 5年以上～10年未満	28	8.1%
3. 10年以上～20年未満	52	15.1%
4. 20年以上～30年未満	65	18.8%
5. 30年以上	160	46.4%
無回答	12	3.5%
合計	345	100%

問4 あなたの家族構成は、どうなっていますか。（1つ選択）

選択肢	実数	%
1. 単身世帯	76	22.0%
2. 夫婦のみ世帯	127	36.8%
3. 親と子の同居世帯	113	32.8%
4. その他	19	5.5%
無回答	10	2.9%
合計	345	100%

問5 あなたの職業についてお聞きします。

問5-1 あなたは現在職業をお持ちですか。(1つ選択)

選択肢	実数	%
1. はい	134	38.8%
2. いいえ	199	57.7%
無回答	12	3.5%
合計	345	100%

「はい」→「問5-2」進んで下さい。

「いいえ」→「問5-3」へ進んで下さい。

問5-2 (現在、職業をお持ちの方へ)あなたは現在、どの職業についていますか。(1つ選択)

選択肢	実数	%
1. 自営業またはその手伝い	10	7.5%
2. 民間企業・団体の経営者、役員	5	3.7%
3. 民間企業・団体の勤め人	59	44.0%
4. 公務員・教員	5	3.7%
5. 臨時・パートの勤め人	51	38.1%
6. 学生	1	0.7%
7. 休職中	0	0.0%
8. 専業主婦・主夫	0	0.0%
9. その他	2	1.5%
無回答	1	0.7%
合計	134	100%

問5-3 (すでに退職されている方へ)あなたの以前の職業は、どれでしたか。(1つ選択)

選択肢	実数	%
1. 自営業またはその手伝い	5	2.5%
2. 民間企業・団体の経営者、役員	17	8.5%
3. 民間企業・団体の勤め人	101	50.8%
4. 公務員・教員	12	6.0%
5. 臨時・パートの勤め人	24	12.1%
6. 専業主婦・主夫	32	16.1%
7. その他	3	1.5%
無回答	5	2.5%
合計	199	100%

問6 あなたの最終学歴は、どれですか。(1つ選択)

選択肢	実数	%
1. 小中学校	30	8.7%
2. 高等学校	151	43.8%
3. 専修学校・各種専門学校	36	10.4%
4. 高専、短期大学	30	8.7%
5. 大学	84	24.3%
6. 大学院	3	0.9%
7. その他	4	1.2%
無回答	7	2.0%
合計	345	100%

問7 あなたの年収(年金を含む)は、どれくらいですか。(1つ選択)

選択肢	実数	%
1. 200万円未満	112	32.5%
2. 200万円以上～400万円未満	141	40.9%
3. 400万円以上～600万円未満	41	11.9%
4. 600万円以上～800万円未満	17	4.9%
5. 800万円以上～1000万円未満	5	1.4%
6. 1000万円以上～1200万円未満	1	0.3%
7. 1200万円以上	1	0.3%
8. わからない	10	2.9%
無回答	17	4.9%
合計	345	100%

問8 あなたの出身都道府県は、どちらですか。ご記入ください。

選択肢	実数	%
北海道	18	5.2%
青森県	4	1.2%
秋田県	5	1.4%
岩手県	2	0.6%
山形県	7	2.0%
宮城県	2	0.6%
福島県	13	3.8%
茨城県	4	1.2%
栃木県	3	0.9%
群馬県	7	2.0%
埼玉県	45	13.0%
千葉県	7	2.0%
東京都	102	29.6%
神奈川県	6	1.7%
静岡県	3	0.9%
山梨県	2	0.6%
新潟県	19	5.5%
長野県	6	1.7%
富山県	2	0.6%
石川県	2	0.6%
福井県	1	0.3%
岐阜県	2	0.6%
愛知県	2	0.6%
三重県	0	0.0%
奈良県	0	0.0%
和歌山県	1	0.3%
滋賀県	0	0.0%
京都府	2	0.6%
大阪府	4	1.2%
兵庫県	5	1.4%
岡山県	3	0.9%
広島県	2	0.6%
鳥取県	1	0.3%
島根県	0	0.0%
山口県	3	0.9%
愛媛県	4	1.2%
香川県	2	0.6%
徳島県	2	0.6%

高知県	1	0.3%
福岡県	9	2.6%
長崎県	2	0.6%
佐賀県	5	1.4%
熊本県	4	1.2%
大分県	1	0.3%
宮崎県	2	0.6%
鹿児島県	1	0.3%
沖縄県	0	0.0%
無回答	27	7.8%
合計	345	100%

②ハイツへの入居動機とハイツに対する現状評価

問9 あなたがハイツに入居した理由は、どれですか。(1つ選択)

選択肢	実数	%
1. 部屋の間取りがよいから	51	14.8%
2. 周辺の自然環境がよいから	57	16.5%
3. 会社の異動・転勤があったから	25	7.2%
4. 結婚したから	17	4.9%
5. 通勤・通学に便利だから	30	8.7%
6. 子供が誕生したから	11	3.2%
7. 値段が手ごろだったから	110	31.9%
8. その他	38	11.0%
無回答	6	1.7%
合計	345	100%

問10 あなたはハイツに入居する際、どう思っていましたか。(1つ選択)

選択肢	実数	%
1. はじめからずっと住もうと思っていた。	89	25.8%
2. はじめからずっと住もうと思っていなかったが、途中から一生住もうと思うようになった。	134	38.8%
3. いまでも一生住もうと思っていない(わからない)。	114	33.0%
無回答	8	2.3%
合計	345	100%

問11 あなたが、ハイツの「住みやすさ・暮らしやすさ」と感じられるものはどれですか。最も評価の良い順に3つ選んでください。

選択肢	1位		2位		3位		得点合計
	実数	%	実数	%	実数	%	
1. 緑が豊かであるなど、自然環境が良いこと	245	71.0%	52	15.1%	17	4.9%	856
2. 隣人等の関係が円満であること	17	4.9%	68	19.7%	50	14.5%	237
3. 近くに親しい知人や友人がいること	25	7.2%	63	18.3%	34	9.9%	235
4. 病院などの公共施設が充実していること	3	0.9%	14	4.1%	9	2.6%	46
5. 自治会や管理組合活動が活発であること	30	8.7%	93	27.0%	74	21.4%	350
6. お祭りやサークル活動が行われていること	2	0.6%	7	2.0%	50	14.5%	70
7. 駅に近いなど、交通の便が良いこと	2	0.6%	6	1.7%	13	3.8%	31
8. 行政サービスが充実していること	0	0.0%	0	0.0%	11	3.2%	11
9. 日常的な買い物に便利であること	1	0.3%	3	0.9%	10	2.9%	19
10. その他	3	0.9%	1	0.3%	5	1.4%	16
無回答	17	4.9%	38	11.0%	72	20.9%	
合計	345	100%	345	100%	345	100%	

順位	1位	2位	3位
選択肢	1	5	2
得点	856点	350点	237点

総得点は、1位に3点、2位に2点、3位に1点を掛けた点の合計(以下、順位付けの処理は同様)

問 12 あなたが、ハイツの「住みにくさ・暮らしにくさ」と感じられるものはどれですか。最も評価の悪い順に3つ選んでください。

選択肢	1 位		2 位		3 位		得点 合計
	実数	%	実数	%	実数	%	
1. 緑が少ないなど、自然環境が悪いこと	4	1.16%	1	0.29%	3	0.87%	17
2. 隣人等との関係があまりよくないこと	8	2.32%	4	1.16%	9	2.61%	41
3. 近くに親しい知人や友人がいないこと	7	2.03%	8	2.32%	28	8.12%	65
4. 病院等の公共施設が充実していないこと	44	12.75%	18	5.22%	119	34.49%	287
5. 自治会や管理組合活動が活発でないこと	0	0.00%	1	0.29%	0	0.00%	2
6. お祭りやサークル活動が少ないこと	0	0.00%	1	0.29%	0	0.00%	2
7. 駅に遠いなど、交通の便が悪いこと	154	44.64%	129	37.39%	23	6.67%	743
8. 行政サービスが充実していないこと	1	0.29%	26	7.54%	37	10.72%	92
9. 日常的な買い物が不便であること	108	31.30%	134	38.84%	65	18.84%	657
10. その他	4	1.16%	2	0.58%	6	1.74%	22
無回答	15	4.35%	21	6.09%	55	15.94%	
合計	345	100%	345	100%	345	100%	

順位	1 位	2 位	3 位
選択肢	7	9	4
得点	743 点	657 点	287 点

③ハイツ内での近所づきあいの状況

問 13 あなたのハイツ内で近所づきあいは、どの程度ですか。(1つ選択)

選択肢	実数	%
1. 相談したり、日用品を貸し借りするなど、生活面で協力し合っている人がいる。	74	21.4%
2. 日常的に立ち話しする程度の付き合いはしている。	158	45.8%
3. あいさつ程度の最小限の付き合いしかしていない。	102	29.6%
4. 付き合いはまったくしていない。	8	2.3%
無回答	3	0.9%
合計	345	100%

問 14 あなたの付き合っているハイツ内の人数の程度は、どのくらいですか。(1つ選択)

選択肢	実数	%
1. かなりの多くの人との面識・交流がある (概ね20人以上)	54	15.7%
2. ある程度の人と面識・交流がある (概ね5人～19人)	159	46.1%
3. 近所のごく少数の人とだけ面識・交流がある (概ね4人以下)	114	33.0%
4. 隣の人が誰かわからない。	12	3.5%
無回答	6	1.7%
合計	345	100%

問 15 あなたは、普段どの程度の頻度でハイツ内の友人・知人と付き合っていますか。(1つ選択)

選択肢	実数	%
1. 日常的にある (毎日～週に数回程度)	47	13.6%
2. ある程度頻繁にある (週に1回～月に数回程度)	98	28.4%
3. ときどきある (月に1回～年に数回程度)	102	29.6%
4. めったにない (年に1回～数年に1回程度)	59	17.1%
5. まったくない (もしくは友人・知人がいない)	35	10.1%
無回答	4	1.2%
合計	345	100%

問 16 あなたは、ハイツでの日常生活において、住民間の支え合いや助け合いがあると思いますか。(1つ選択)

選択肢	実数	%
1. おおいにある	32	9.3%
2. まあまあある	169	49.0%
3. どちらともいえない	90	26.1%
4. あまりない	37	10.7%
5. まったくない	12	3.5%
無回答	5	1.4%
合計	345	100%

問 17 あなたは、ハイツの管理事務所やまるた小屋などの集会施設をどう考えていますか。(1つ選択)

選択肢	実数	%
1. とても重要である	142	41.2%
2. まあ重要である	124	35.9%
3. どちらともいえない	57	16.5%
4. あまり重要でない	11	3.2%
5. まったく重要でない	2	0.6%
無回答	9	2.6%
合計	345	100%

④ハイツ内での管理組合や自治会等の活動状況

問 18 あなたは、ハイツ内で活動している組織や団体を知っていますか。次のイ～タの項目ごとに、「知っている」「知らない」のいずれか該当する番号を1つ選んで下さい。

	1. 知っている	2. 知らない	無回答	%
イ. 緑化推進本部	87.0%	7.5%	5.5%	100%
ロ. わくわく自然園を守り育てる会	76.2%	17.4%	6.4%	100%
ハ. 生ごみリサイクルを進める会	85.2%	9.3%	5.5%	100%
ニ. 楽農クラブ	44.6%	44.6%	10.7%	100%
ホ. アルミ缶リサイクルの会	80.9%	12.5%	6.7%	100%
ヘ. 子供育成会	87.0%	8.1%	4.9%	100%
ト. あおやぎ文庫	85.8%	9.0%	5.2%	100%
チ. まるたの会	71.9%	21.7%	6.4%	100%
リ. 秩父荒川交流実行委員会	77.7%	16.2%	6.1%	100%
ヌ. 寿会	85.8%	8.7%	5.5%	100%
ル. 福祉の会・風見どり	71.6%	21.7%	6.7%	100%
オ. 花水木会	69.6%	24.3%	6.1%	100%
ワ. たすけあいの輪	45.5%	44.1%	10.4%	100%
カ. 青空サロン	52.8%	36.5%	10.7%	100%
ヨ. たまごルーム	29.9%	59.1%	11.0%	100%
タ. NPO法人グリーンオフィスさやま(NPOじおす)	63.2%	28.1%	8.7%	100%

問 19 あなたは、問 18 の表中のイ～タの各種の組織や団体の活動が盛んだと感じますか。(1つ選択)

選択肢	実数	%
1. 非常に盛んであると思う。	167	48.4%
2. ある程度は行われていると思う。	141	40.9%
3. ほとんど活動は行われていないと思う。	1	0.3%
4. わからない。	27	7.8%
無回答	9	2.6%
合計	345	100%

問 20 上記問 18 表中のイ～タまでのうち主に参加している組織・団体と参加の程度についてお聞きします。

問 20-1 あなたが、問 18 の表中のイ～タまでのうち主に参加しているものはどれですか。該当するものを 1 つ選び記入してください。(参加しているものがひとつもなければ空欄のままにし、「問 21」へ進んで下さい。)

選択肢	実数	%
イ. 緑化推進本部	18	5.2%
ロ. わくわく自然園を守り育てる会	2	0.6%
ハ. 生ごみリサイクルを進める会	17	4.9%
ニ. 楽農クラブ	1	0.3%
ホ. アルミ缶リサイクルの会	5	1.4%
ヘ. 子供育成会	4	1.2%
ト. あおやぎ文庫	1	0.3%
チ. まるたの会	4	1.2%
リ. 秩父荒川交流実行委員会	1	0.3%
ヌ. 寿会	26	7.5%
ル. 福祉の会・風見どり	16	4.6%
オ. 花水木会	3	0.9%
ワ. たすけあいの輪	0	0.0%
カ. 青空サロン	2	0.6%
ヨ. たまごルーム	1	0.3%
タ. NPO 法人グリーンオフィスさやま (NPO じおす)	7	2.0%
無回答	237	68.7%
合計	345	100%

問 20-2 上で選んだ組織や団体の催しに、どの程度参加していますか。

選択肢	実数	%
1. ほとんど参加している	51	47.2%
2. 半分程度参加している	19	17.6%
3. 重要な時だけは参加している	36	33.3%
無回答	2	1.9%
合計	108	100%

問 20-3 あなたが上の「問 20-1」で選んだ組織や団体の活動に参加することで、どんなことを得ましたか。重要な順に 2 つ選んでください。

選択肢	1 位		2 位		得点 合計
	実数	%	実数	%	
1. 達成感、充実感を味わえた。	12	11.1%	5	4.6%	29
2. 知識やノウハウが豊かになった。	13	12.0%	13	12.0%	39
3. 地域・社会に対する貢献ができた。	19	17.6%	15	13.9%	53
4. 地域のさまざまな人のつながりができた。	46	42.6%	21	19.4%	113
5. 地域への愛着が深まった	6	5.6%	20	18.5%	32
6. 地域・社会の仕組みや問題がわかった。	6	5.6%	21	19.4%	33
7. その他	2	1.9%	2	1.9%	6
無回答	4	3.7%	11	10.2%	
合計	108	100%	108	100%	

順位	1 位	2 位
選択肢	4	3
得点	113 点	53 点

問 21 あなたの自治会の役員の経験についてお聞きします。

問 21-1 あなたは、自治会の役員の経験がありますか。(1つ選択)

選択肢	実数	%
1. ある	192	55.7%
2. ない	138	40.0%
無回答	15	4.3%
合計	345	100%

「ある」→「問 21-2」へ進んで下さい。

「ない」→「問 22」へ進んでください。

問 21-2 上で「1. ある」を選んだ方にお聞きします。あなたが経験した回数は、何回ですか。(1つ選択)

選択肢	実数	%
1. 1回	80	41.7%
2. 2回	54	28.1%
3. 3回	29	15.1%
4. 4回	17	8.9%
5. 5回以上	11	5.7%
無回答	1	0.5%
合計	192	100%

問 22 あなたは、国や自治体の選挙がある時には、投票に行きますか。

選択肢	実数	%
1. 毎回必ず投票に言っている	144	41.7%
2. たいてい投票に行っている	129	37.4%
3. あまり投票に行っていない。	44	12.8%
4. まったく投票に行っていない。	20	5.8%
無回答	8	2.3%
合計	345	100%

⑤ハイツの社会的企業(コミュニティ・ビジネス)の認識

問 23 ハイツ内の組織・団体の活動の仕組みについてお聞きします。

ハイツには、管理組合、自治会、「NPO じおす」の三者が、それぞれ補助金を出し合い、ハイツ内でお金を循環させることで、コミュニティを活性化させ、時には生きがい雇用の場を提供し、ハイツの共通問題の解決や新しい循環整備を行っています。

問 23-1 あなたは、このような仕組みを知っていますか。(1つ選択)

選択肢	実数	%
1. 知っている	182	52.8%
2. 知らない	145	42.0%
無回答	18	5.2%
合計	345	100%

「知っている」→「問 23-2」に進んで下さい。

「知らない」→「問 24」に進んで下さい。

問 23-2 あなたは、このような仕組みをどう思いますか。(1つ選択)

選択肢	実数	%
1. このまま継続していくべきである	102	56.0%
2. 改善を加えて継続していくべきである	79	43.4%
無回答	1	0.5%
合計	182	100%

問 24 「NPO じおす」についてお聞きします。

問 24-1 あなたは、「NPO じおす」を知っていますか。(1つ選択)

選択肢	実数	%
1. 知っている	185	53.6%
2. 知らない	142	41.2%
無回答	18	5.2%
合計	345	100%

「知っている」→「問 24-2」に進んで下さい。

「知らない」→「問 25」に進んで下さい。

問 24-2 あなたは、この組織をどう思いますか。(1つ選択)

選択肢	実数	%
1. このまま継続していくべきである	96	51.9%
2. 改善を加えて継続していくべきである	84	45.4%
無回答	5	2.7%
合計	185	100%

⑥ハイツ内の人々の一般的な信頼感

問 25 あなたは、一般的に人に対する信頼についてどう考えますか。あなたの考えに近いと思うものを1つ選んで下さい。

選択肢	実数	%
1. ほとんどの人は信頼できる	33	9.6%
2. ある程度は信頼できる	202	58.6%
3. 注意することに越したことはない	79	22.9%
4. 信頼できない	2	0.6%
5. わからない	24	7.0%
無回答	5	1.4%
合計	345	100%

問 26 ハイツに住んでいる人に対する信頼感についてお聞きします。

問 26-1 あなたは、ハイツに住んでいる人に対する信頼についてどう考えていますか。あなたの考え方に近いと思うものを1つ選んでください。

選択肢	実数	%
1. ほとんどの人は信頼できる	51	14.8%
2. ある程度は信頼できる	205	59.4%
3. 注意することに越したことはない	57	16.5%
4. 信頼できない	6	1.7%
5. わからない	20	5.8%
無回答	6	1.7%
合計	345	100%

問 26-2 あなたが上の「問 26-1」で選んだ主理由は、どんなものですか。(1つ選択)

選択肢	実数	%
1. かなり多くの人と面識・交流があるから	28	8.1%
2. ある程度の人と面識・交流があるから	150	43.5%
3. 近所のごく少数の人とだけ面識・交流があるから	105	30.4%
4. 隣の人がだれだかわからないから	11	3.2%
5. その他	21	6.1%
無回答	30	8.7%
合計	345	100%

⑦ハイツの入居時(入居から1~2年の間)と現在(ここ1~2年の間)の比較

問 27 あなたが、入居したころのハイツの住み心地は、どんなものでしたか。(1つ選択)

選択肢	実数	%
1. とても住みやすかった	51	14.8%
2. まあ住みやすかった	192	55.7%
3. 以前住んでいたところと変わらなかった	26	7.5%
4. あまり住みやすくなかった	48	13.9%
5. まったく住みやすくなかった	5	1.5%
6. わからない	13	3.8%
無回答	10	2.6%
合計	345	100%

問 28 あなたが、入居したころのハイツの安全性の印象は、どんなものでしたか。(1つ選択)

選択肢	実数	%
1. とても安全だった	57	16.5%
2. まあ安全だった	212	61.5%
3. 以前住んでいたところと変わらなかった	34	9.9%
4. あまり安全でなかった	11	3.2%
5. まったく安全でなかった	1	0.3%
6. わからない	20	5.8%
無回答	10	2.9%
合計	345	100%

問 29 あなたが、入居したころのハイツ内の活気は、どんなものでしたか。(1つ選択)

選択肢	実数	%
1. とても活気があった	105	30.4%
2. まあ活気があった	151	43.8%
3. 以前住んでいたところと変わらなかった	24	7.0%
4. あまり活気がなかった	23	6.7%
5. まったく住みやすくない	3	0.9%
6. わからない	29	8.4%
無回答	10	2.9%
合計	345	100%

問 30 現在のハイツに住み心地は、どうですか。(1つ選択)

選択肢	実数	%
1. とても住みやすい	38	11.0%
2. まあ住みやすい	199	57.7%
3. 以前住んでいたところと変わらなかった	12	3.5%
4. あまり住みやすくない	67	19.4%
5. まったく住みやすくない	11	3.2%
6. わからない	7	2.0%
無回答	11	3.2%
合計	345	100%

問 31 現在のハイツの安全性の印象は、どうですか。(1つ選択)

選択肢	実数	%
1. とても安全	33	9.6%
2. まあ安全	235	68.1%
3. 以前住んでいたところと変わらなかった	18	5.2%
4. あまり安全でない	29	8.4%
5. まったく安全でない	2	0.6%
6. わからない	17	4.9%
無回答	11	3.2%
合計	345	100%

問 32 現在のハイツの活気は、どうですか。(1つ選択)

選択肢	実数	%
1. とても活気がある	23	6.7%
2. まあ活気がある	153	44.3%
3. 以前住んでいたところと変わらなかった	17	4.9%
4. あまり活気がない	102	29.6%
5. まったく活気がない	9	2.6%
6. わからない	28	8.1%
無回答	13	3.8%
合計	345	100%

⑧日常生活上の問題や心配事

問 33 あなたは、入居して間もないころ、問題や心配事がありましたか。重要性の高い順に3つ選んで下さい。

選択肢	1位		2位		3位		得点合計
	実数	%	実数	%	実数	%	
1. 健康・身体の状況	44	12.8%	28	8.1%	40	11.6%	228
2. 家族の健康や世話	34	9.9%	39	11.3%	29	8.4%	209
3. 乳児時期の子育て	31	9.0%	16	4.6%	9	2.6%	134
4. 子や孫のしつけ・教育	13	3.8%	20	5.8%	13	3.8%	92
5. 家計・仕事・就職	29	8.4%	33	9.6%	28	8.1%	181
6. 家庭内での人間関係	1	0.3%	8	2.3%	8	2.3%	27
7. ハイツの建物や設備の改修	21	6.1%	48	13.9%	22	6.4%	181
8. 集合住宅での暮らし方(ゴミ出し、ペット飼育、近隣関係、上下階や隣の騒音など)	87	25.2%	51	14.8%	51	14.8%	414
9. その他	3	0.9%	2	0.6%	7	2.0%	20
10. 問題や心配事はない	48	13.9%	5	1.4%	12	3.5%	166
無回答	34	9.9%	95	27.5%	126	36.5%	
合計	345	100%	345	100%	345	100%	

順位	1位	2位	3位
選択肢	8	1	2
得点	414点	228点	209点

問 34 あなたは、現在、問題や心配事がありますか。重要性の高い順に3つ選んで下さい。

選択肢	1位		2位		3位		得点合計
	実数	%	実数	%	実数	%	
1.健康・身体の状況	138	40.0%	49	14.2%	25	7.2%	537
2.家族の健康や世話	40	11.6%	49	14.2%	10	2.9%	228
3.乳児時期の子育て	2	0.6%	1	0.3%	4	1.2%	12
4.子や孫のしつけ・教育	5	1.4%	8	2.3%	5	1.4%	36
5.家計・仕事・就職	20	5.8%	42	12.2%	34	9.9%	178
6.家庭内での人間関係	3	0.9%	4	1.2%	9	2.6%	26
7.ハイツの建物や設備の改修	20	5.8%	50	14.5%	43	12.5%	203
8.集合住宅での暮らし方(ゴミ出し、ペット飼育、近隣関係、上下階や隣の騒音など)	36	10.4%	36	10.4%	53	15.4%	233
9.その他	6	1.7%	4	1.2%	6	1.7%	32
10.問題や心配事はない	45	13.0%	5	1.4%	17	4.9%	162
無回答	30	8.7%	97	28.1%	139	40.3%	
合計	345	100%	345	100%	345	100%	

順位	1位	2位	3位
選択肢	1	8	2
得点	537点	233点	228点

問 35 あなたが、ハイツに一生住み続けようと考えた場合、どれが重要ですか。重要性の高い順に3つ選んで下さい。

選択肢	1位		2位		3位		得点合計
	実数	%	実数	%	実数	%	
1.緑が豊かであるなど、自然環境が良いこと	118	34.2%	27	7.8%	34	9.9%	442
2.隣人などとの関係が円満であること	41	11.9%	59	17.1%	35	10.1%	276
3.近くに若者や子供が多く居住していること	2	0.6%	6	1.7%	10	2.9%	28
4.病院等の公共施設が充実していること	42	12.2%	44	12.8%	39	11.3%	253
5.自治会や管理組合活動が活発であること	12	3.5%	39	11.3%	38	11.0%	152
6.お祭りやサークル活動が行われていること	0	0.0%	6	1.7%	11	3.2%	23
7.駅に近いなど、交通の便が良いこと	31	9.0%	49	14.2%	24	7.0%	215
8.行政サービスが充実していること	5	1.4%	19	5.5%	13	3.8%	66
9.近くに大型スーパーや商店街があること	42	12.2%	44	12.8%	62	18.0%	276
10.親や子が近くに住んでいること	18	5.2%	12	3.5%	21	6.1%	99
11.その他	10	2.9%	0	0.0%	6	1.7%	36
無回答	24	7.0%	40	11.6%	58	16.8%	
合計	345	100%	345	100%	345	100%	

順位	1位	2位		3位
選択肢	1	2	9	4
得点	442点	276点	276点	253点

その他の主たる内容

問 5-2

- ・週3日の会社の清掃
- ・介護職

問 9

- ・夫の意志で余り考えなかった
- ・一身上の都合
- ・持家がほしかったから
- ・住む処だったらどこでも良かった
- ・親族が入居しているため
- ・知り合いが住んでいたから
- ・子供たちが多く、若い街だった?
- ・妻が気に入ったから
- ・子供が近くに住むから

- ・実家がハイツだったから
- ・離婚して姉がいたので越して来ました
- ・他人にすすめられて
- ・離婚
- ・なんとなく
- ・親の持ち家だったから
- ・生まれたときから
- ・不動産(新狭山駅前)
- ・部屋で犬がかえる
- ・娘が居住していた
- ・実家がハイツだったから
- ・庭があったから
- ・以前購入したもの、空家になったから・日当たりが良いから
- ・身内が購入してしまったので仕方なく
- ・家族追出し
- ・妻が気に行ったので
- ・知り合いが、近くにいるので
- ・友人が先に住んでいて引っ越すので購入した
- ・親と同居
- ・親が近くに住んでいたから

問 11

- ・お金がかからない
- ・住居の間取りが、住みやすく出来ている(3LDK)
- ・賃料の安さ
- ・犯罪や火事が少ない
- ・小学校・中学校が近いこと
- ・間取りが良い

問 12

- ・歩けなくなったときのこと(階段)
- ・エレベーターがない
- ・雨が降るとバイク置き場(公園)が泥だらけ
- ・駐車場出入口前の路上駐車
- ・耐震面で不安
- ・犬が多い
- ・年々階段の昇降がづらくなってくる
- ・修繕費・管理費が高い。他の団地と横並びであるが、役所の予算と同様で毎月入ってくるので、消化するような修繕案、管理案になって、コスト削減⇒値下げにはなりにくい。日本全体がバブルの値上げ、値上げの後遺症で管理体制の所は値上げはストップしたが、値下げまでは行かない状態だ(197)
- ・階段、生活不便
- ・若い人が入って来ない。空き室が多くなった
- ・あまり感じない

問 26-2

- ・人は基本的に善良であると思うから
- ・うらぎられることが多い
- ・ひどいめにあった経験上
- ・まだ住んで間もない為
- ・自治会の人々の感じが悪かった、会費・使途不明金が多いらしい
- ・付き合いが長くなると人間の本性が見えて嫌になる
- ・昔からのグループがあってそれに入れれない。新しい人は無縁社会になっているのに処置されていない
- ・交流があっても信用できるとは限らない
- ・一般的に人はある程度信用できるから
- ・一般的に不善な人は少ないから
- ・数10回にわたりイヤがらせ電話をされた
- ・他人ならどこ誰に対しても注意するにこしたことはない
- ・一般的な日本人の感覚として

- ・かぎられた人しか信じられないから

問 33

- ・夫の通勤・子供の通学・帰宅が交通の便が悪く不便
- ・心配事は特別ありませんでしたが・・・夢中で生活していました。
- ・生活が不便(買い物、交通)
- ・自治会参加が押しつけがましい気がした
- ・邪悪な行政の一部の人による家庭破壊
- ・買い物を持ちながらの階段がきつい
- ・火災
- ・駅まで遠い
- ・交通の問題で残業が出来ない

問 34

- ・バス運行が少なくなり不便を感じている
- ・交通と日常生活の買い物の不便さ(特に最近)
- ・年齢が高くなって今背負っている役職の引き受け手がいない
- ・飛行機の騒音
- ・将来に対する漠然たる不安
- ・老後の暮らし
- ・交通の便が悪い
- ・買い物不便・駅まで遠い
- ・店や交通の便が少ないこと
- ・交通不便により通院買い物時?かかる
- ・不動産について

問 35

- ・階段の昇降ができる限り
- ・高齢者が住める環境づくり
- ・エレベーターがあれば、一生の可能性有り
- ・治安が良い事
- ・自治会や管理組合活動が活発でない事
- ・高齢者層が多く、今後のハイツ居住者が増えるのか心配
- ・建物の補修等維持管理
- ・別に問題がないので、移るのが面倒だから
- ・身体が健康であること
- ・出たくても資金がないので
- ・近くに知人、友人がいる
- ・超不便なので住んでいたくないが金銭的理由などで他へ移れない
- ・一戸建てと比べて安全であること